

植調

第42巻第1号



ヒマワリ (*Helianthus annuus* L.) 長さ15mm

財団法人 日本植物調節剤研究協会編
<http://www.japr.or.jp/>

よりよい農業生産のために。三共アグロの農薬

●SU抵抗性雑草(ホタルイ等)に3成分で効果がある
一発処理除草剤

クサトリ-DX

ジャンボ®H/L・1キロ粒剤75/51・フロアブルH/L

●効きめの長〜い
初・中期一発処理除草剤!!

ラクダー-プロ

フロアブル・Lフロアブル・1キロ粒剤75/51

●白化させて枯らす
非SU型初・中期一発剤!!

イネエース

1キロ粒剤

●がんこな草も蒼白に
初・中期一発処理除草剤!!

シロノック

1キロ粒剤75/51・H/Lフロアブル・H/Lジャンボ®

●三共アグロの優れた製剤技術から
生まれた グリホサート液剤

三共の草枯らし

●使いやすい初期一発処理除草剤

ミスラッシャ

粒剤・1キロ粒剤

●ノビエ3.5葉期まで使える新しい中期除草剤

ザーベックスDX 1キロ粒剤

●畦畔からの侵入雑草に効果ある中期剤

カービー 1キロ粒剤

●一成分で一掃、初期除草剤

ベクサー フロアブル・1キロ粒剤

●時代先どり、ジャンボな省力
投げ込むだけの一発処理除草剤

クサトリエース

Hジャンボ®・Lジャンボ®

●移植前後に使える初期除草剤

シンブ 乳剤

●SU抵抗性のアゼナ・ホタルイに /

クサコント

フロアブル

●最初に抑える、幅広く抑える初期除草剤

ミスウィーブ フロアブル

●田植同時処理が可能な一発剤

クサカリテイオー

1キロ粒剤75/51・H/Lフロアブル

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。



三共アグロ株式会社

三井化学グループ 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

詳しくは、ホームページで!

三共アグロネット会員募集中!

<http://www.sankyo-agro.com/>

サービス

1

インターネット
栽培履歴管理システム『かすが目録』

サービス

2

登録内容携帯電話チェック

サービス

3

登録情報メールサービス

無料

スギナ

イボクサ

マルバツユクサ

アメリカアサガオ

アメリカアワロ

ツユクサ

イヌスギナ

茎葉処理型除草剤

バスタ 液剤

大切な作物のそばに

®は登録商標

ちゃんと除草剤を使っても、なぜか雑草が残ってしまう。

すっきり枯れない経験はありませんか?

いままで枯れにくかった“問題雑草”に強い、それがバスタ。

高い効果を発揮し、あなたの大切な作物を守ります。



Bayer CropScience

バイエルクロップサイエンス株式会社
www.bayercropscience.co.jp

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベル記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

●似た草の見分けかた (2) の口絵 (本文23～27頁)



▲サヤヌカグサ



▲サヤヌカグサ



▲エソノサヤヌカグサ



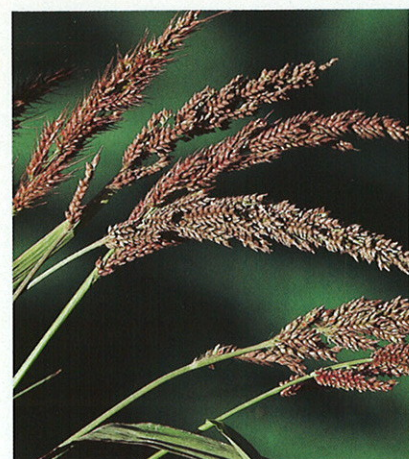
▲タイヌビエ



▲ヒメタイヌビエ



▲ケイヌビエ



▲イヌビエ



▲ヒメイヌビエ



▲ヒエ



▲ミゾハコベ 茎は泥の上をはう



▲ミズハコベ 葉は水面に浮かぶ



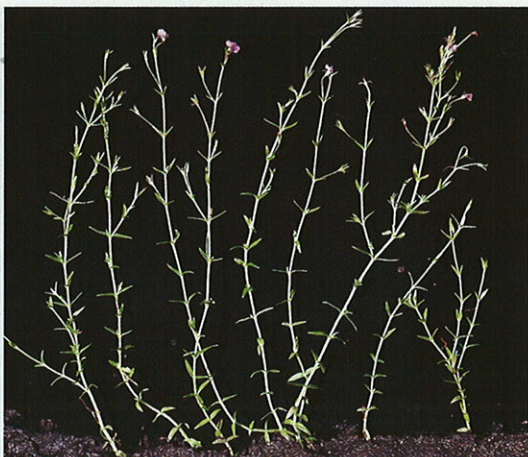
▲イケノミズハコベ ミズハコベより全体が大きい



▲スズメノウガラシ 葉の縁は鈍鋸歯



▲アゼトウガラシ 葉の縁は低鋸歯



▲サワトウガラシ 葉の縁は全縁



▲カワジシャ 葉柄がなく基部が茎を抱く



▲エゾノカワジシャ 葉柄がある



▲コナギ 葉は広披針形



▲ミズアオイ 葉は心臓形で大きい



▲コナギ 花は葉より低い



▲ミズアオイ 花は葉より高い



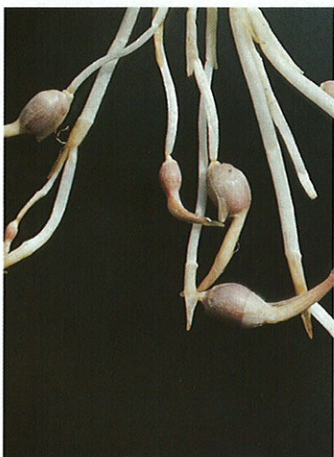
▲上・コナギ下・ミズアオイ



▲オモダカ 頂製片より下片が長い



▲アギナシ 頂製片は下片より長い



▲オモダカ塊茎 地下茎の先端に塊茎をつける



▲アギナシ塊茎 茎基部に塊茎をつける



▲幼苗 上オモダカ・アギナシ
下ヘラオモダカ・サジオモダカ



▲ヘラオモダカ 葉はへら状



▲サジオモダカ 葉はさじ形

： 卷 頭 言 ：



植物の生体防御機構を有機農業に活かさないか

(財)日本植物調節剤研究協会 理事 藤巻 宏
東京農業大学国際食料情報学部 教授

動物や昆虫と異なり移動能力を持たない植物は、生育環境を選択できないばかりでなく、草食性の昆虫や動物の攻撃を受けやすい。このため野生植物は、遺伝的に多様な子孫を多数残し、「最適者生存の原理」により、生育環境に最もよく適応するものだけが生き残る生存戦略をとるとともに、天敵から身を守るためにさまざまな生体防御機構を備えている。生物的生体防護機構としての遺伝的抵抗性は農作物の改良に用いられ、病害虫抵抗性品種が育成されてきた。また、化学的生体防護機構としての二次代謝産物の利用に関しては、ジョチュウギクに含まれるピレトリンやまめ科植物デリスのロテノンなどの殺虫剤として利用にとどまっている。

ところで、動物、病害虫、雑草などの有害生物と植物との間の相互作用を暗示する現象が知られている。秋の彼岸ころになると、水田の畦畔をヒガンバナが彩る。野ネズミやモグラの穿孔による畦畔の水漏れ防止のために昔人が植えたといわれている。また、サクラの樹の下には、雑草が生えにくいとも言われる。近年にはマリーゴールドの栽培が線虫の駆除に役立つことが話題になり、その効能が科学的に実証されている。さらに、有毒植物トウワタを独占的に食草とするオオカバマダラ(蛾)は、その有毒物質を体内で無毒化して蓄積しておいて、天敵の野鳥ルリカケスにひどい嘔吐症状を引き起こさせるという興味深い事例が知られている。

芝生の雑草は、除草剤で防除することができ

るが、モグラの芝生あらしには手をやく人が少なくない。超音波発信機を埋設したり、クレゾールを注入したりしても撃退は容易ではない。ところが、モグラの侵入路にヒガンバナを植えると、モグラの穿孔害を防ぐことができることを筆者は経験している。

野山に自生していたフジバカマは、秋の七草にも数えられ日本人の生活に馴染んできた。しかし、昨今、絶滅危種に指定され人工繁殖された鉢植えを花屋の店頭で見かける。古来より乾燥フジバカマが被服防虫効果を持つことが知られている。この植物の生葉や乾燥葉は独特の芳香を発し防虫作用をもつと考えられる。因みに、鉢や庭に栽培すると、開花期に蝶や蜂などの訪花が見られるが、毛虫などによる食害はほとんどみられない。

コナラやクヌギの里山の林床には厚い落葉層があり、夏秋期には多数のカメムシ(種名不詳)が発生し、秋冷とともにアルミサッシの隙間から住居内に侵入して住人を悩ませる。そこで、フジバカマの開花株を地際から刈り取り乾燥させ、室内に飾りつけておいたところ、カメムシの侵入がほとんど見られなくなった。フジバカマの乾燥標本には芳香があり、鑑賞価値も高いことから、一挙兩得以上といえる。このような植物が進化させてきた生体防御機構を昨今はやりの有機農業に巧みに活かすことはできないものであろうか。

目次

(第 42 卷 第 1 号)

巻頭言

植物の生体防御機構を有機農業に活かさないか 1
 <(財)日本植物調節剤研究協会 理事
 東京農業大学国際食料情報学部 教授 藤巻 宏>

除草剤を活用した外来植物の防除 7
 <(財)日本植物調節剤研究協会 村岡 哲郎>

技術情報

水稻湛水直播用苗立促進剤カルパー粉粒剤16の簡易な
 コーティング法* 20
 <(財)日本植物調節剤研究協会 村岡 哲郎
 保土谷UPL株式会社 安齋 達雄>

－ここがポイント－

似た草の見分けかた (2) 23
 <原図 桑原 義晴 全国農村教育協会 廣田 伸七>

平成 19 年度緑地管理関係除草剤・生育調節剤試験成
 績概要 28
 <(財)日本植物調節剤研究協会 技術部>

－東京郊外で増えた帰化植物－

イケノミズハコベとオオカワヂシャ 41
 <全国農村教育協会 廣田 伸七>

植調だより 42



問題雑草を 一掃!!

水稲用初・中期一発処理除草剤

ダイナマン

1キログラム粒剤75



D1キログラム粒剤51



水稲用初・中期一発処理除草剤

ダイナマン

フロアブル
ダイナマンフロアブル
ダイナマンLフロアブル



Dフロアブル



水稲用初・中期一発処理除草剤

ダイナマン

(ジャンボ)



水稲用初・中期一発処理除草剤

マサカリ

(ジャンボ)







日本農薬株式会社
 東京都中央区日本橋1丁目2番5号
 ホームページアドレス <http://www.nichino.co.jp/>

●使用前にはラベルをよく読んでください。
 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。
 ●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。
 *空容器は農場に放置せず、
 環境に影響のないように適切に処理してください。

除草剤を活用した外来植物の防除

(財) 日本植物調節剤研究協会 村岡哲郎

はじめに

2005年6月より施行された‘外来生物法’「特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律」の中で述べられているように、他の地域から意図的または非意図的に持ち込まれた生物（外来種）の一部が、その地域の自然環境に大きな影響を与えていることが知られている。外来種の中で、このように地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすものは‘侵略的外来種（invasive alien species）’と呼ばれている。植物については、河川敷などに侵入したアレチウリ（写真－1）やハリエンジュ（別名ニセアカシア）、小笠原諸島に侵入したアカギやギンネムなどの外来種が、その極めて高い繁殖力により、長い時間をかけて育まれてきたかけがえのない固有種を含む在来の植物種を圧迫している事例が数多く報告されている。



写真－1 河川敷を覆い尽くすアレチウリ

2005～2007年度に行われた文部科学省のプロジェクト研究、科学技術振興調整費・重要課題解決型研究「外来植物のリスク評価と蔓延防止策」（独立行政法人 農業環境技術研究所ホームページ）では、（独）農業環境技術研究所が中心となって外来植物の生態特性の解明、今後侵入が予想される外来植物種に対するリスク評価法の開発、侵入した外来植物種に対する蔓延防止技術の開発に関する研究を行った。その中で（財）日本植物調節剤研究協会は、他の参画機関とも協力し合いながら、主に自然生態系に悪影響を及ぼしている代表的な外来植物種に対し、効率的でかつ防除対象植物以外の生物への影響が少ない防除法の確立に取り組んだ。

その結果、除草剤を用いた防除は、薬剤の種類や使用方法を適切に選択すれば、自然植生中で問題となっている植物に対し、効率的でかつ保全すべき植物への悪影響が少ない防除手段となることが判った。その研究成果を基に、以下の外来植物防除マニュアルを取りまとめたので、ここに紹介する。

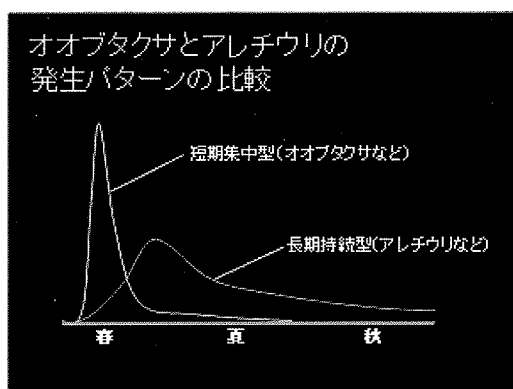


図-1 オオブタクサとアレチウリの発生パターンの違い

自然植生中における外来植物の防除マニュアル (暫定版)

～問題化している外来植物の特徴と防除方法～

(<http://www.japr.or.jp/>)

1) アレチウリ (特定外来生物)

学名: *Sicyos angulatus* [ウリ科]

[特徴] 北アメリカ原産の一年生草本で、茎はつるで粗い毛を密生し、巻きひげで他物に絡みつきながら急速に成長する。葉は広心臓形で、主茎長は15m以上に達し、枝分かれしながら一面を覆う。1952年に静岡県で見出され、現在では東北以南で普通に見られる。飼料畑などでも見られるが特に河川敷などで大繁殖し、植生の多



写真-2 他の植物に被陰され枯れるアレチウリ

様性を失わせている事例が報告されている(写真-1)。春から秋まで長期間にわたって発生するのが特徴(図-1)で、生育初期の競合力は比較的弱い(写真-2)が、植物の被覆が少ない場所(ギャップ)から発生した個体がつるを伸ばして蔓延するケースが多い(写真-3)。短日性で、秋(9月上旬)に一斉に開花し、長い刺が密生した楕円形の実を房状につける。実の中には、硬い種皮をもつ黒色の種子が入っており、土中における種子の寿命は5年程度と考えられる。

[防除方法]

(1) 有用な植物と混生している場合

- ① つる長が1～2mになった段階で抜き取る
注) 1回目は必ず6月中に実施すること
- ② 1ヶ月後(7月)に、同様に、つる長が1～2mになったものを除去
- ③ 1ヶ月後(8月)に、同様に、つる長が1～2mになったものを除去
長野県では8月10日以降に発生したものは開花結実しないとされている。

※抜き取り作業を行う際の注意点

- ・他の植物に覆われている小さな個体を見つけ出して抜き取る必要はない。

(これらは自然に枯れる可能性が高い) →



写真-3 他の植物の上に出てきたアレチウリ

これにより格段に作業効率が良くなる。

- ・抜き取り作業は、数mおきに横に並んで前進しながら抜いていく。
- ・抜く際には、地際の子葉節を残さないようにする（根をつけて抜き取る方が望ましい）。
- ・抜いた個体はビニール袋に入れて回収し、枯れた後に適切に処分する。
（他の植物の上に乗せておいても干からびてすぐに枯れるが・・・）
- ・狭い範囲に大勢の人が踏み込んだりすることによって、新たなギャップが形成され、逆にアレチウリの発生を促す危険性もある。
抜き取り作業の際には、できるだけ植物の被覆状態を保つよう注意する。

(2) 抜き取りが行えず、一面にはびこってしまった場合

この段階で抜き取り作業を行っても、節が残ってすぐに再生してしまう。また、他の植物につるが絡んでいるため、抜き取り作業により有用な植物まで抜けてしまうなど植生に大きなダメージを与えてしまうおそれあり。

- ・翌年以降の発生源となる種子形成を防止するため、開花（9月）前に茎葉処理剤*を散布する（写真－4）ことが望ましい。

茎葉処理剤*・・・土に落ちると不活性化するタイプの

除草剤

→ 薬液がかかった植物は枯れるが、後から発生する植物には影響のないものが多い

例) グリホサート〇〇塩・・・多くの種類の植物を枯らすことができる

ビスピリバックナトリウム塩・・・アレチウリを含め、広葉雑草は枯らすものが多いが、イネ科雑草は生育を抑制するのみで枯らさない。

※薬液散布時には、専用の発泡ノズルを使用するなど、必ず飛散防止対策を行うこと。

→アレチウリが枯れ上がったなら、熊手などで残渣を払いのけ、地面に光を当てる（写真－5）。

これにより冬生植物の発生が促され（写真－6）、次年度のアレチウリの発生が抑えられる。

※アレチウリは「外来生物法」によって「特定外来生物」に指定されており、生きたまま移動させることが禁止されているので、防除を行う際にも、生きた植物体（発芽可能な種子も含む）を発生区域外に持ち出さないよう十分に注意すること。

2) オオブタクサ（別名 クワモドキ）

学名：Ambrosia trifida [キク科]

[特徴] 北アメリカ原産の一年生草本で、茎はよく分岐し、草高は5m以上に達する（写真－7）。葉は長い柄があって対生し、葉身は20～30cmで掌状に3～7裂し、裂片は細長く尖って両面ともざらつく。カナダ、アメリカなどでは主要な農耕地雑草となっている。わが国では1953年に関東地方で見つかり、現在では北海道から沖縄まで分布し、主に空き地、線路沿い、河川敷な



写真－4 茎葉処理剤の散布作業 写真－5 残渣払いのけ作業 写真－6 冬生植物の発生状況



写真-7 河川敷に繁茂したオオブタクサ

どに多く見られる。他草種に先駆けて早春から発生し、その旺盛な生育速度で他の植物を圧倒する(写真-8)。風媒花で大量の花粉を飛ばすため、夏から秋にかけての花粉症の原因植物の一つともなっている。アレチウリと異なり、発生は春先に集中する(図-1)。土中における種子の寿命は比較的短く、2年程度と考えられる。

[防除方法]

前年度に繁茂した場所では1㎡当たり100本以上の芽生えが発生してくるため、これを手取りするのは極めて困難。また、刈り込んだだけでは速やかに再生し、再び優占化してしまう。



写真-9 除草剤*でオオブタクサが枯れた場所からは多種の植物が発生

除草剤*：グリホサートアンモニウム塩 41% 液剤 500ml/10a



写真-8 春先に一面に発生したオオブタクサ

(1)発生密度が高い場合(1㎡当たり10本以上)

- ・発生が揃った段階で除草剤(グリホサート剤などの茎葉処理剤)を散布して枯らす(写真-9)。

※薬液散布時には、専用の発泡ノズルを使用するなど、必ず飛散防止対策を行うこと。

※生育盛期(草高1m以上)の場合は、一度刈り込みを行い、再生後に茎葉散布する。

※立ち枯れした残渣が気になる場合には、枯れ始めた段階で刈り込みを行っても良い。

※耕作放棄地などに発生がみられる場合は、春に発生したものをグリホサート剤などで枯らした後、耕起してソバなどの被覆植物を播



写真-10 手前が除草剤*散布+ソバ播種区(注) 後方は放任区のオオブタクサ

種し、オオブタクサの発生（花粉や種子の形成）を抑えつつ景観を維持する方法も考えられる（農業環境技術研究所 写真－10）。

※イネ科植生中（法面など）に多数発生した場合は、ビスピリバックナトリウム塩液剤を茎葉散布することで、オオブタクサの伸長をとめて開花（花粉の発生）を防ぎつつ、イネ科植物を優占化させることもできる。

(2)発生密度が低い場合（有用な植物と混生している場合 写真－11）

・手で抜き取る

※地下に埋もれている節からも再生するので、確実に根まで抜き取る（写真－12）

3) ハリエンジュ（別名 ニセアカシア）

学名：*Robinia pseudoacacia* [マメ科]

[特徴] 北アメリカ原産の落葉性の高木で、樹高は25 mに達する。葉は奇数羽状複葉、ふつう5～10対の楕円形の側小葉があり、托葉は刺となっている。花期は4～6月で、芳香のある白色の花を房状に密生する。かつて緑化木として多く利用され、蜜源としても有用であるが、河川敷や海岸林などで繁殖して純林を形成し、植生の単純化を招いている（写真－13）。また、根が浅く倒れやすいために、流木化するなど防災上からも問題となり（写真－14）、果樹の炭疽病の宿主となるなど、農業面からも問題となっている。伐採されても切り株や水平に伸びた根（水



写真－11 在来植生中に発生したオオブタクサ



写真－12 根から抜き取ったオオブタクサ



写真－13 河川敷に広がるハリエンジュ林
注）左下は葉、右下は花



写真－14 ハリエンジュの流木



写真-15 伐採当年に再生したハリエンジュ
(注) 切り株や水平根から多数の萌芽が発生

平根) から多数の萌芽を出して速やかに再生する (写真-15)。

[防除方法]

(1) 成木 (3 年木以上) の場合

- ・伐採後にグリホサート剤の原液または 2 倍希釈液を切り株の切断面にハケなどを使って十分に塗布する (写真-17) **

**現在、数種の薬剤について農薬登録の適用拡大のための試験を実施中であるため、登録取得後に使用のこと。

※上記の方法は、切り株につながった水平根からの根萌芽の発生も抑えることができ、株周辺の他の植物に対しても極めて影響の少ない防除

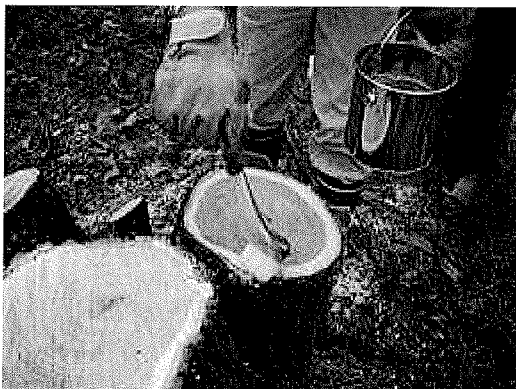


写真-17 切り株への除草剤*塗布作業

除草剤*: グリホサートアンモニウム塩 41% 液剤の 2 倍希釈液を切り口に十分量塗布



写真-16 グリホサートアンモニウム 41% 液剤
(原液) の樹幹穴開け灌注処理

法である (写真-18)。

※林地内でハリエンジュを立ち枯れさせても良い場合には、ドリルで幹に穴 (直径 5 ~ 10mm × 深さ 10cm 程度 幹の太さに合わせて 2 ~ 10 個) を開けてグリホサート剤を 1 穴あたり 1ml 注入する方法 (写真-16 「林地」における「落葉雑かん木」対象として既に農薬登録あり) が使用できるが、枯れた後は適宜伐採しないと倒木の危険有り

(2) 若木 (1 ~ 2 年木) の場合

- ・イネ科植生中 (法面など) にハリエンジュの若木 (伐採木からの再生分枝や水平根からの発生



写真-18 枯死したハリエンジュ切り株
※周辺の植物には悪影響は見られない



写真-19 ニセアカシアが多発した法面

分枝)が多数発生した場合は、ビスピリバックナトリウム塩液剤***をハリエンジュの茎葉に散布(年2回)することによりイネ科植生を維持することもできる(写真-19, 写真-20)。

***現在、ニセアカシアを対象として農業登録の適用拡大のための試験を実施中。

4) セイタカアワダチソウ

学名: *Solidago altissima* [キク科]

[特徴] 北アメリカ原産の多年生草本で、ロゼット状態で越冬し、春先、地下茎にためた栄養分を使って急速に成長して他の植物を圧倒する(写真-21)。草高は2.5mに達し、秋に茎の上部に多数の枝を出し、直径5mmほどの黄色い頭



写真-20 ビスピリバックナトリウム塩3%液剤 1000ml/10a 散布区 (処理41日後)

状花を密に穂状につける。葉はひ針形で、縁には不揃いの鋸歯があり、やや密に互生する。茎と葉には短毛が密生していてざらつき、この点で、北日本に多く茎や葉が無毛の同属のオオアワダチソウと区別できる。明治年間に観賞用に導入されたといわれるが、第二次世界大戦後に温暖地を中心に広く帰化し、空き地や河川敷で大群落を形成している(写真-22)。一時、花粉症の原因植物と考えられたこともあったが、本種は虫媒花で花粉はあまり飛散せず、花粉自体にアレルギー性は無いことが判っている。花が終わると冠毛のついた種子を多数付け、種子は風で運ばれて休耕地のような植被が少ない場所に定着し、新たな群落を形成する。



写真-21 秋空に咲くセイタカアワダチソウの花



写真-22 川岸を占有するセイタカアワダチソウ



写真-23 セイタカアワダチソウの手取り作業



写真-24 刈取り1ヶ月後の再生状況

【防除方法】

繁茂した場所では1㎡当たり数十本の茎数となり、地下茎もからみあっているため、これを手取りするには多大な労力を要する（写真-23）。また、地上部を刈り込んだだけでは速やかに再生し、再び優占化してしまう（写真-24）。

(1)発生密度が高い場合（1㎡当たり10本以上）

- ・発生が揃った段階で茎葉処理剤（グリホサート剤）を多年生雑草対象の薬量にて茎葉散布することで、茎葉部に繋がった地下茎まで枯らしてしまえることができる（写真-25～27）。※薬液散布時には、専用の発泡ノズルを使用



写真-25 セイタカアワダチソウ繁茂地における除草剤*散布風景

除草剤*：グリホサートアンモニウム塩 41% 液剤 1000ml/10a

するなど、必ず飛散防止対策を行うこと。

※生育盛期（草高1m以上）の場合は、一度刈り込みを行い、再生後に茎葉散布する。

※立ち枯れした残渣が気になる場合には、枯れ始めた段階で刈り込みを行っても良い。

※除草剤処理後に再生してくる株については、秋には黄色い花を、春には赤い茎を目印に抜き取りを行う。その際、できるだけ地下茎をつけた形で抜き取るようにする（写真-28）。

※イネ科植生中（法面など）に多数発生した場合は、メトスルフロンメチル顆粒水和剤を多年生広葉雑草対象の薬量にて茎葉散布することで、



写真-26 除草剤*散布1ヶ月後の状況

注）緑色を呈しているのは、つる植物の葉



写真-27 除草剤散布3ヶ月後の植生の様子
注) 多種の植物からなる群落に変化した

発生していたセイタカアワダチソウを枯らし、イネ科植物を優占化させることができる。

(2)発生密度が低い場合(有用な植物と混生している場合)

- ・できるだけ地下茎をつけた形で手で抜き取る

5) セイバンモロコシ(別名 ジョンソングラス)

学名: *Sorghum halepense* [イネ科]

[特徴] 地中海沿岸原産で、世界の熱帯から温帯にかけて広く帰化している多年生草本。海外では、畑地の強害雑草として知られている。春になると地中に張り巡らした地下茎から萌芽し、急速に伸長して他の植物を圧倒する(写真-



写真-29 堤防一面に密生するセイバンモロコシ
注) 右下は掘り出した地下茎



写真-28 除草剤散布後に再生した株の抜き取り
注) 秋には黄色い花を目印に行う

29)。草高は2mを超え、夏から秋にかけて長さ15~50cmの赤みを帯びた円錐状の穂(写真-30)を出し、多数の小穂をつける。大きさや発生場所が似ていることからススキやオギに見間違われることも多いが、ススキのように株にはならず、また、オギとは穂の形状が大きく異なるので出穂すれば区別は容易である。わが国では、1943年に千葉県で採集された記録があり、現在では、東北以南の道端、堤防、果樹園などに広がっている。

[防除方法]

地上部を刈り込んだだけでは速やかに再生し、再び優占化してしまう(写真-31)。また、地下



写真-30 セイバンモロコシの円錐状の穂



写真-31 刈取り2ヶ月後の再生状況

茎が切れやすいため、多大な労力を使って抜き取りを行っても、やがて残った地下茎から再生してしまう（写真-32）。

・セイバンモロコシの草丈が20～30cmの段階（生育初期または刈取り後の再生時）で、イネ科植物のみを枯らすフルアジホップP乳剤を多年生イネ科雑草対象の薬量（400～600 ml/10a 散布水量150 L/10a）にて茎葉散布することにより、混生している広葉植物には悪影響を与えずにセイバンモロコシを防除することができる（写真-33～36）。

※ヨシなどのイネ科植物は薬液がかかると大きなダメージを受けてしまうため、飛散軽減ノズルを使用するなど、周辺の有用なイネ科植物に薬液が飛散しないよう十分に注意する。

外来のイネ科植物には問題となるものが多く含まれ、一方、希少な在来種は広葉植物であることが多いので、イネ科植物のみを枯らす除草剤の利用は、効率的な植生管理を行うための有用な手段となると考えられる。

[参考] 除草剤の登録状況について

農耕地以外の場所で問題となる植物を除草剤

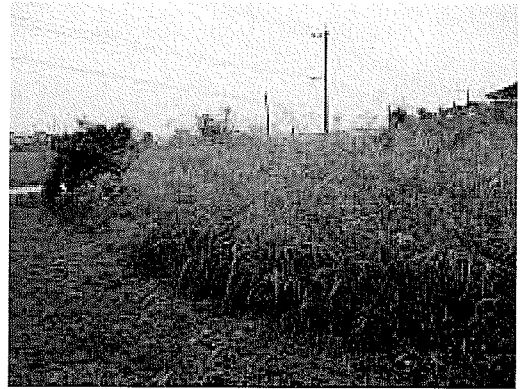


写真-32 抜き取り4ヶ月後の再生状況

を用いて防除する際には、適用地帯「樹木等」（林地で使用する場合には「樹木類」）として農薬登録されている除草剤を、登録内容に沿った形で使用すること。

農薬登録に関する情報については、（独）農林水産消費安全技術センターのホームページ中にある下記の情報検索システムを用いると、最新の登録状況を調べることができる。

・農薬登録情報検索システム

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>

（使い方の例）

- 農薬登録情報ダウンロードを選択
- (1)ページ右側の「適用地帯」→「樹木等」をクリックして上の「追加」ボタンを押す
注) 林地で使用する場合には「樹木類」をクリック
- 作物名称の欄に「樹木等」と追加される
- (2)用途の欄で「除草剤」のチェックボックスをクリック
- ダウンロードを選択すると、登録されている除草剤のリストがダウンロードされる



写真-33 除草剤*散布時の状況
除草剤*：フルアジホップ P17.5% 乳剤 600ml/10a



写真-34 散布後数日でセイバンモロコシが変色



写真-35 やがてイネ科植物のみが枯死
(散布2ヶ月後の状況)



写真-36 速やかに広葉植物優占群落へと変化
(散布2ヶ月後の状況)

おわりに

除草剤は植物に対して影響の強い物質であるため、使い方を誤れば、保全すべき植物に対しても悪影響を及ぼす可能性がある。そのことを十分に認識しながら、植物の特性やその場の状況に応じ、他の防除技術と組み合わせながら除草剤を適切に利用していくことが大切である。

なお、本マニュアルの基となったプロジェクト研究を遂行するにあたっては、(独)農業環境技術研究所の藤井義晴博士、古林章弘博士、岡山大学の榎本 敬博士、株式会社エスコの中村良子博士、長野県環境保全研究所の前河正昭博士、千曲川河川環境アドバイザーの桜井善雄博士、

日産化学株式会社の石川公広氏をはじめとする多くの方々にご協力をいただいた。この場を借りて深くお礼を申し上げたい。

参考文献

- 1) 外来生物法－特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律－. 環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/nature/intro/>)
- 2) 日本生態学会 (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館
- 3) 外来種影響・対策研究会 (2003) 河川における外来種対策の考え方とその事例－主な侵

- 略的外来種の影響と対策－. リバーフロントセンター
- 4) 前河正昭・中越信和 (1997) 海岸砂地においてニセアカシア林の分布拡大がもたらす成帯構造と種多様性への影響. 日本生態学会誌 47: 131-143
- 5) 竹内安智・近内誠登・竹松哲夫 (1979) アレチウリの生態に関する研究. 雑草研究 24 (別): 109-110
- 6) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 (2001) 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会
- 7) 原田景次 (1985) 仙台近郊におけるクワモドキ (オオブタクサ) の生態 1. 生育の様相の実態並びに他雑草との競合について. 雑草研究 30 (別): 85-86
- 8) 原田景次 (1986) 仙台近郊におけるクワモドキ (オオブタクサ) の生態 播種期の移動による発芽及び生育の様相. 雑草研究 33 (別): 197-198
- 9) 竹松哲夫・一前宣正 (1987) 世界の雑草 I - 合弁花類 -. 全農教
- 10) 鷺谷いづみ (1996) オオブタクサ, 闘う. 平凡社
- 11) 榎本敬 (2005) 外来雑草は今……(17) セイタカアワダチソウは戦前に日本に侵入し、戦後大きく広がった. 植調 39(4): 141-146
- 12) 鷺谷いづみ (2002) 生き物の不思議(5) セイタカアワダチソウー旺盛なクローン成長と種子繁殖による完璧な生活史戦略－. 遺伝 56(5) 12-14
- 13) 近田文弘・清水建美・濱崎恭美 (2006) 帰化植物を楽しむ. トンボ出版
- 14) 玉泉幸一郎・飯島康夫・矢幡久 (1991) 海岸クロマツ林内に生育するニセアカシアの根萌芽の分布とその形態的特徴. 九大演報 64: 13-27
- 15) 萩本宏 (1976) セイバンモロコシの生長. 雑草研究 21 (別): 33-35
- 16) 竹松哲夫・一前宣正 (1997) 世界の雑草 III - 単子葉類 -. 全農教
- 17) 全国農業協同組合・全国農業安全指導者協議会 (2007) 農業安全適正使用ガイドブック 2008

牧草・毒草・雑草図鑑

定価 2,940円
(本体2,800円+税5%)

編著: 清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七

B6判 288頁 カラー写真 800点

牧草・飼料作物80種、雑草180種、有毒植物40種を収録した畜産のための植物図鑑

発行/社団法人畜産技術協会

販売/全国農村教育協会 電話 03-3839-9160 FAX 03-3839-9172

水田初・中期一発処理除草剤

オークス®

フロアブル



抵抗性雑草防除の本命!!

新発売

 日産化学工業株式会社
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1 (興和一橋ビル) 03(3296)8141
<http://www.nissan-nouyaku.net/>




= アピロ

水変動に強い、ピリフタリドが
ヒエをしっかりおさえます。

水管理が難しく、ヒエが多発する水田にはアピロ



ヒエをおさえて
収量アップじゃ!

新登場!



009 (サイボーグ009より)





003 (サイボーグ009より)

アピロ スター
1キロ粒剤



002 (サイボーグ009より)

アピロ トップ
A1キロ粒剤36 / 1キロ粒剤51



004 (サイボーグ009より)

アピロ トップ
Lフロアブル



004 (サイボーグ009より)

アピロ ファインド
ジャンボ



002 (サイボーグ009より)

アピロ フロ
フロアブル

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空袋・空容器は農地などに放置せず適切に処理してください。
 農薬をご使用の際は、ご購入先、または当社ホームページなどで最新の登録内容をご確認下さい。

(R)はシンジェンタ社の登録商標

シンジェンタ ジャパン株式会社
 [ホームページ] <http://www.syngenta.co.jp>

syngenta.

技術情報

水稻湛水直播用苗立促進剤カルパー粉粒剤 16 の簡易なコーティング法*

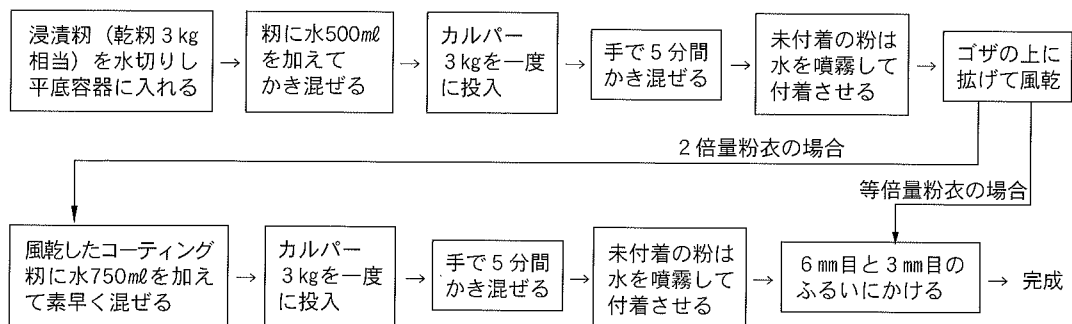
(財) 日本植物調節剤研究協会 村岡哲郎
保土谷 UPL 株式会社 安齋達雄

水稻の湛水直播栽培においては、近年、カルパー（過酸化カルシウム）コーティング粉を用いた‘落水出芽法’が定着し、出芽苗立の不安は解消されてきている。しかし、小規模農家や直播栽培を小面積で試行したいと考えている人達にとって、カルパーコーティング粉を作るのに必要なコンピューター制御の全自動コーティングマシンは高価であり、また、比較的安価なドラム式コーティング機についても被覆作業に熟練を要するという難点がある。そこで、小面積で湛水直播栽培を行いたいと考えている農家や研究者向けに、誰にでも容易で、機械を使用しないカルパーコーティング法を考案したので報告する。

既存のカルパーコーティング法は、粉に水を霧状に与えながら酸素発生剤であるカルパー粉粒剤 16（商品名：以後、カルパーと表記）を少

量ずつ投入して被覆させていく方法であるが、今回開発した方法は、1回につき 10a 分の粉（乾粉 3kg 相当の浸漬粉）を入れた容器中に、必要量の水とカルパーを一度に投入して手でかき混ぜるだけの簡便な方法である。コーティングにかかる所要時間は、10a 分の粉のカルパー等倍量処理の場合、カルパーと粉をかき混ぜる時間が 5～10 分、コーティング粉をゴザの上にひろげる作業が約 5 分、風乾後のふるい作業にかかる時間が 2～3 分である。できあがったコーティング粉の被膜強度は、前出の専用機械で作ったものに比べればやや劣るものの、手回し散粒器での散布にも十分に耐え得るものである。

今後、この方法が、新たに直播栽培にチャレンジする農家に利用され、省力的な直播栽培の普及に貢献できることを期待したい。



図－1 コーティング作業全体の流れ

※詳しくは次頁を参照のこと

*本原稿は、「小規模農家を対象とした簡易なカルパーコーティング法」として第 223 回日本作物学会にてポスター発表したものを一部改訂加筆したものである。

専用の粉衣機械を使わない簡易なカルパーコーティング法の作業手順

- 1) 発芽前の状態の浸漬粉（乾粉 3kg 相当）をザルなどに入れて良く水を切り，たらいなどの平底容器に移す。
- 2) 水 500ml を加えてかき混ぜ，水を全体になじませる（写真－1）。



写真－1



写真－2



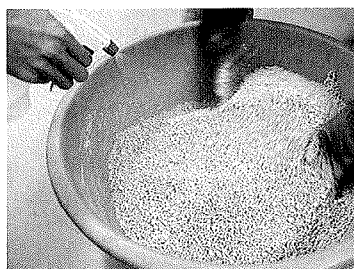
写真－3

* 粉と水量の比率が違うと上手くできないので注意！

- 3) カルパー 3kg を一度に投入して 5 分間程度良くかき混ぜる（写真－2，写真－3）。
- * 容器の底に溜まったカルパーを削ぎ取るような感じで，カルパーが固まらないうちに手早く仕上げるのがコツ。

* 大粒（複粒）が残っている場合は，固まる前に，手で揉んで小粒（単粒）にする。

- 4) 未付着状態の粉が残っている場合はスプレーで水を噴霧しながらかき混ぜて付着させる（写真－4）。



写真－4



写真－5



写真－6

- 5) 大きな塊を手で揉んでバラバラにしながらゴザの上に拡げて 1 時間以上風乾する（写真－5，写真－6）。

* 10 a 分以上の被覆粉が必要な場合は，風乾している間に別の粉で 1)～5) を繰り返す。

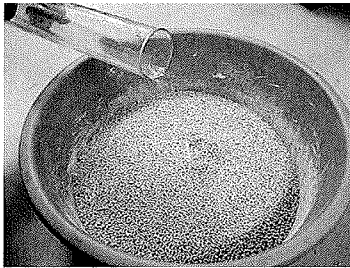
*等倍量被覆粉として使用する場合は6)～9)を省いて10)へ進む。2倍量被覆粉の場合は6)へ進む。

6)風乾した等倍量被覆コーティング粉に水750mlを加えて手早くかき混ぜ、水を全体になじませる(写真－7)。

7) さらにカルパー 3kgを一度に投入して5分間程度良くかき混ぜる(写真－8, 写真－9)。

*かき混ぜる要領は、3)の等倍量のかき混ぜ時と同じ。

8)未付着状態の粉が残っている場合はスプレーで水を噴霧しながらかき混ぜて付着させる。



写真－7



写真－8

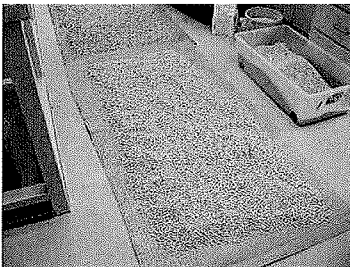


写真－9

9) 大きな塊を手で揉んでバラバラにしながらゴザの上に拡げて1時間ほど風乾する(写真－10)。

10)風乾が済んだら6mm目の金網でふるって大

粒を除き、3mm目の金網で粉を除いて完成(写真－11, 写真－12)。



写真－10



写真－11



写真－12

－ここがポイント－ 似た草の見分けかた (2)

原図 桑原義晴

全国農村教育協会 廣田伸七

「植調」第41巻4号(通巻460号)平成19年7月発行で－ここがポイント－似た草の見分けかたと題して「タデ科植物」21種を掲載したところ好評をいただいた。今回はその(2)として水田雑草22種を対象としてその見分けかたを掲載した。

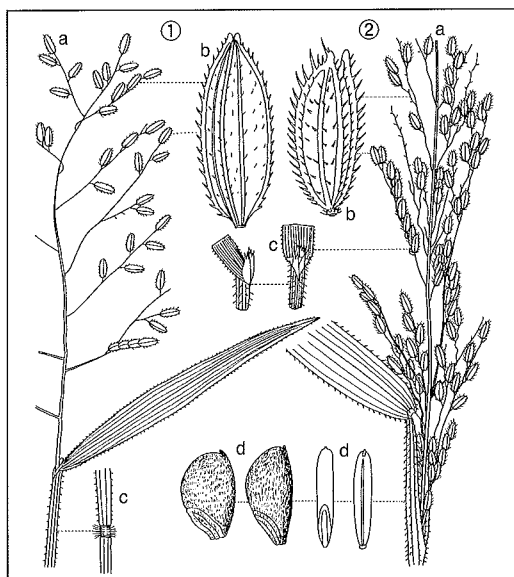
雑草には一見して同じように見えるものが数多くある。例えばカワヂシャとエゾノカワヂシャは外形がほとんど同じで、これを見分けられる人はかなりの専門家である。また、アゼトウガラシとスズメノトウガラシ、サウトウガラシ、この3種はほとんど同じような形でこれも難しい仲間である。この仲間はゴマノハグサ科のアゼトウガラシ属(*Lindernia*)で、アゼナ、アメリカアゼナ、アゼトウガラシ、スズメノトウガラシ、ウリクサなどがあるが、水田で多いのは

アゼナ、アメリカアゼナ、アゼトウガラシ、スズメノトウガラシでウリクサは畑地の雑草である。アゼナ、アメリカアゼナは葉が楕円形～卵状長楕円形で葉の幅が広いのに対し、アゼトウガラシとスズメノトウガラシは葉が披針形～倒披針形で細長いので簡単に区別がつく。サウトウガラシはゴマノハグサ科のサウトウガラシ属(*Deinostema*)であるが水田に発生が多い。アゼトウガラシ、スズメノトウガラシ、サウトウガラシは非常に似ているので区別は容易ではないが、葉や果実の特長を理解すると簡単に区別できる。こうした類似雑草を全体の印象は口絵のカラー写真で(1～4頁参照)、各々の特長は図と解説で理解していただきたいと試みたのが本稿である。雑草調査にいささかでもお役に立てば本望である。

●サヤヌカグサ・多年生とエゾノサヤヌカグサ・多年生(イネ科)●

(Leersia sayanuka Ohwi)

(Leersia oryzoides Sw.)



▲①サヤヌカグサ ②エゾノサヤヌカグサ
a. 花序 b. 小穂 c. 葉鞘と葉舌及び節 d. 果実(穎果)

どちらも水田付近の排水溝や湿地に群生し、畦畔などから水田に侵入して水田の雑草となる。見分けるポイントはエゾノサヤヌカグサはサヤヌカグサに比べて小穂の縁と両面の剛毛が長くて明瞭である。

－見分け方－

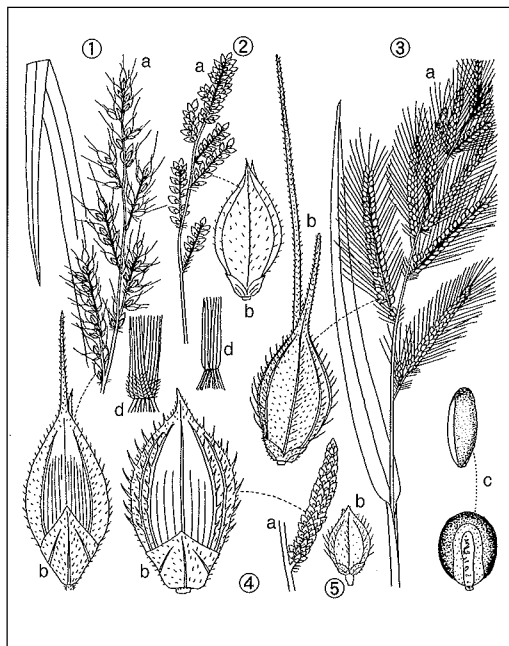
草種 部位	サ ヤ ヌ カ グ サ
葉	黄緑色、葉の縁に剛毛がありざらつくが毛は短い。葉舌は長さ4mm。葉鞘に下向きの短刺がある。
茎	下部は倒伏し節々から枝を出し斜上または直立。節に下向きの白い細毛がある。
小穂	線状長楕円形、長さ5.5～6.5mmで面はほぼ緑色。縁と側面に剛毛があるが短くてややまばら。

草種 部位	エ ゾ ノ サ ヤ ヌ カ グ サ
葉	葉の緑色はサヤヌカグサ程鮮明ではない。葉の縁の剛毛は長くざらつく。葉舌は長さ2mm、葉鞘に下向きの刺があり、サヤヌカグサより多く長い。
茎	基部は長くほふくし、節々から新しいほふく根茎を伸ばし節々から枝を出す。節に下向きの毛がある。
小穂	長楕円形、長さ5～6mm。縁と側面にサヤヌカグサより長い剛毛が多くあり、特に縁の剛毛は長くて明瞭である。

ヒエ属の比較 (イネ科)

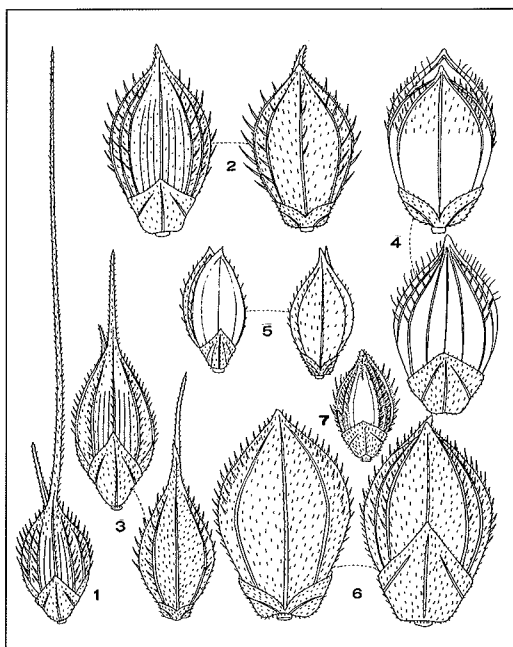
耕地に生育する1年草。葉舌は発達しない。小穂は2小花からなり、第1小花は不完全。

1. タイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *oryzicola* Ohwi 小穂は狭卵形、淡緑色、長さ4～5.5 mm、芒は3～10 mm。
2. ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *formosensis* Ohwi 小穂は卵形、濃緑色、長さ3 mm、芒は0.5～1 mm。
3. ケイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *echinata* Kitagawa 小穂は卵形、赤紫色、長さ3 mm、芒は10～35 mm。
4. イヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. 小穂は卵形、紫かつ色、長さ3～4 mm、芒は1～5 mm。
5. ヒメイヌビエ *Echinochloa crus-galli* Beauv. var. *praticola* Ohwi 小穂は卵形、緑色～淡紫かつ色、長さ2.5～3 mm、芒はない。



▲図の数字は本文の数字を示す
a. 花序 b. 小穂 c. 果実(穎果) d. 株元

ヒエ属 小穂の比較 (イネ科)



▲図の数字は本文の数字を示す

耕地や荒地、路傍に生育する1年草。1小穂2小花で、第1小花は不完全。葉舌はまったく発達しない。

1. ケイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *echinata* Kitagawa 葉の幅10～15 mm。小穂は卵形3 mm、赤紫色。芒10～35 mm。
2. イヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. 葉の幅10～18 mm。小穂は卵形3～4 mm、紫かつ色。芒1～5 mm。
3. タイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *oryzicola* Ohwi 葉の幅8～12 mm。小穂は狭卵形4～5.5 mm、芒3～10 mm。
4. ヒエ *Echinochloa crus-galli* var. *frumentacea* Trin 葉の幅10～15 mm。小穂は広倒卵形3～3.2 mm、紫かつ色。芒は退化。
5. ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* P. Beauv. var. *formosensis* Ohwi 葉の幅3～6 mm。小穂は卵形3 mm、濃緑色。芒0.5～1 mm。
6. ワセビエ *Echinochloa colonum* Link 葉の幅6～10 mm。小穂は倒卵形2.5～3 mm、緑色。芒は退化。
7. ヒメイヌビエ *Echinochloa crus-galli* Beauv. var. *praticola* Ohwi 葉の幅6～10 mm。小穂は卵形2.5～3 mm、緑色～淡紫かつ色、芒は退化。

●ミゾハコベ(ミゾハコベ科)・1年生とミズハコベ(アワゴケ科)・1年生●

(Elatine triandra Schk.)

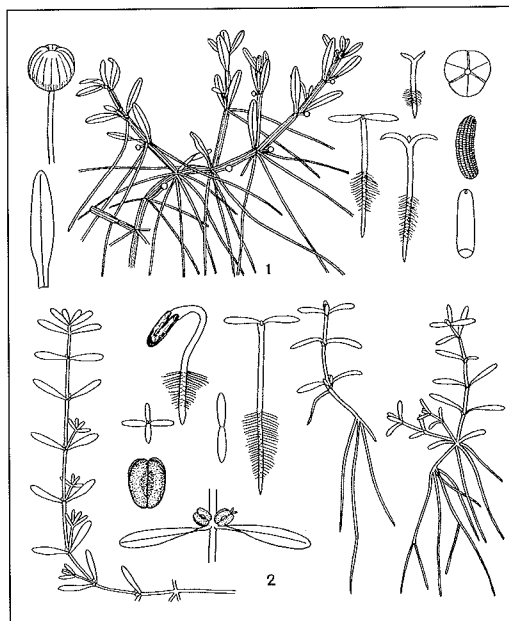
(Callitriche palustris L.)

ミゾハコベ、ミズハコベはゾとズの違いだけだが似た名前でよく間違われる。どちらも小形の雑草で水田によく発生する。ミゾハコベは水田の泥に張りついたように生育し、ミズハコベは細い茎を伸ばして先の方に葉が集まってつき、葉を水面上に浮かべて生育する。最近はこのミズハコベに似たイケノミズハコベという帰化植物が現われている。(カラー頁参照)

一見分け方ー

草種	ミゾハコベ
部位	
葉	葉は対生。長楕円状披針形でやや厚みがあり、短い葉柄と托葉がある。茎・葉ともに泥に張りついたように生育し、水中にある。
茎	円柱状で泥の上を横にはい分枝し節々から根を出す。
花	淡紅色。がく片、花弁、雄しべ各3個つく。
果実	果実は球形。種子は細い楕円形。
他	

草種	ミズハコベ
部位	
葉	葉は対生。水中葉は線形。水上葉はへら状長楕円形でどちらも柄はない。水上葉は茎の上部に集まってつき水面に浮かぶ。
茎	円柱状で細く、多くに分枝して長く伸び長さ10~30cm。茎の下部は水中にあり、上部は水面に浮かぶ。
花	白色。がく片、花弁はない。雄しべは1個で2個の包がある。
果実	果実は楕円形で狭い翼がある。
他	



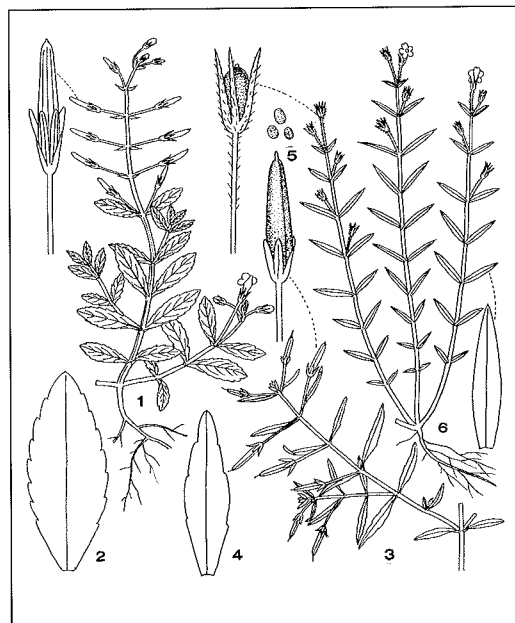
▲ 1. 上段 ミゾハコベ 2. 下段 ミズハコベ

●スズメノトウガラシ・1年生とアゼトウガラシ・1年生とサウトウガラシ・1年生(ゴマノハグサ科)●

(Lindernia antipoda Alston) (Lindernia angustifolia Wettst.) (Deinostema violacea Yamazaki)

3者いずれもトウガラシと名がついているが、これは果実の形がトウガラシに似ているのでこの名がついている。いずれも水田に発生し、葉の形、果実の形が似ていて見分けが難しいが、葉の鋸歯と果実に見分けるポイントがある。

一見分け方ー



▲ 1~2 スズメノトウガラシ 3~5 アゼトウガラシ 6 サウトウガラシ

草種	スズメノトウガラシ
部位	
茎・葉	茎は四角柱状、根元で分枝し四方に広がる。長さ10~20cm。葉は対生・倒披針形、長さ2~4cm。3種のうち葉が一番大きく幅も広い。縁は鈍鋸歯。
花・果実	花は淡紅紫色。雄しべ2本。さく果は線形で長さはがくの2~2.5倍。(アゼトウガラシは3~4倍ある)

草種	アゼトウガラシ
部位	
茎・葉	茎は四角柱状、根元で分枝してくさむら状に直立。長さ10~25cm。葉は対生・披針形でスズメノトウガラシより幅が狭く、長さ1~3cm。縁は低鋸歯。
花・果実	花は淡黄白色~淡紅紫色。雄しべ4本。さく果は線形で細長く、がくの3~4倍。(スズメノトウガラシは2~2.5倍と短いのでこれで区別できる)

草種	サウトウガラシ
部位	
茎・葉	茎は軟弱。根元で分枝し高さ12~24cm。葉は対生、線形で幅が狭く長さ7~10mm。縁は全縁。
花・果実	花は紫色。雄しべ4本で2本は仮雄しべ。さく果は長楕円形でがくよりも短く、がくの表面や果柄に腺毛がまばらにある。(果実よりがくが長いのが特長)

●カワヂシャ・1～越年生とエゾノカワヂシャ・多年生●

(Veronica undulata Wall.)

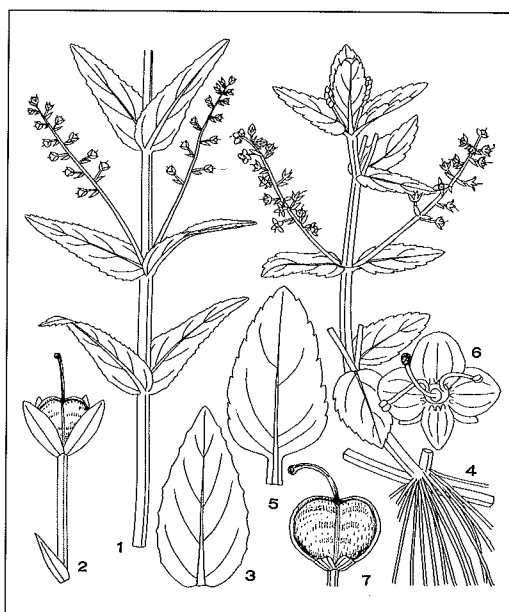
(Veronica americana Schw.)

カワヂシャ、エゾノカワヂシャはともに水田や畦、川岸、溝などに生育する。全体の形がよく似ているので判別が難しいが、見分けるポイントは葉にある。また最近では帰化植物のオオカワヂシャが暖地では多くなっている。(カラー頁参照)

－見分け方－

草種	カワヂシャ
部位	
葉	葉は対生、長楕円状披針形、先はとがり基部は円～微心形、縁に細かい鋸歯がある。長さ2.5～7cm、幅0.5～2.5cm。葉柄はなく基部がふくらんで茎を抱く。質は軟らかい。
茎	茎は円柱形で軟らかく、高さ20～50cm。
花	茎上部の葉腋に総状花序をだし、花冠は白色で淡紅紫色の糸がある花をつける。径4mm。
果実 他	さく果は球形、長さ3mm。

草種	エゾノカワヂシャ
部位	
葉	葉は対生、狭卵形、基部は円形で葉柄がある。長さ3～7cm、幅0.8～2.5cm。縁の鋸歯はカワヂシャよりもやや深い。この点と葉柄があることが判別のポイントである。
茎	茎の下部はほふくして節から根をだす。円柱形で軟らかく、高さ10～35cm。
花	茎上部の葉腋から総状花序をだし、花冠が青紫色の花をつける。径6mm。
果実 他	さく果は球形で先がやや凹む。長さ2～3mm、幅3～3.5mm。



▲1～3 カワヂシャ 4～7 エゾノカワヂシャ

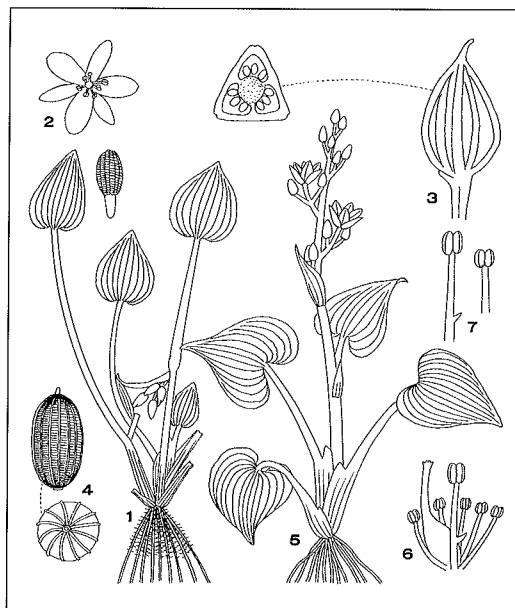
●コナギ・1年生とミズアオイ1年生 (ミズアオイ科) ●

(Monochoria vaginalis Presl)
var. plantaginea Solms-Laud.)

(Monochoria korsakowii Regel et Maack)

コナギ、ミズアオイは水田や溝などに生育し、特にコナギは発生量が多く水田の害草である。ミズアオイは地域によって発生量が多い場所もあるが、一方地域によっては希少植物に指定されている所もある。両者は葉の形が似ていて見分けに迷う種類である。

－見分け方－



▲図1～4コナギ 5～7ミズアオイ

草種	コナギ
部位	
葉	広披針形、卵形、心臓形など変化が多い。幅は1.5～4cm。葉は総て根生し、葉鞘は長さ5～10cmで先に1個の葉をつける。
茎	茎は短い
花	花は青紫色で径1.5～2cm。葉柄の基部に数個の花が集まって短いふさ状の花穂をつけるが、この花穂は葉よりも高くない。これがミズアオイとの一つの区別点である。
果実 他	さく果は卵状長楕円形。

草種	ミズアオイ
部位	
葉	心臓形で幅4～15cmとコナギより大きい。葉は根生するものは葉柄が20cm内外と長い。茎につく葉の柄は短い。葉柄の基部はさや状になって茎をとり巻く。
茎	茎は直立し、高さ20～40cm。
花	花は青紫色で径2.5～3cm。茎の上部に葉よりも高く花柄を出して花を総状につける。これがコナギとは大きな違いである。
果実 他	さく果は球状～楕円形。

●オモダカ・多年生とアギナシ・多年生（オモダカ科）●

(*Sagittaria trifolia* L.)

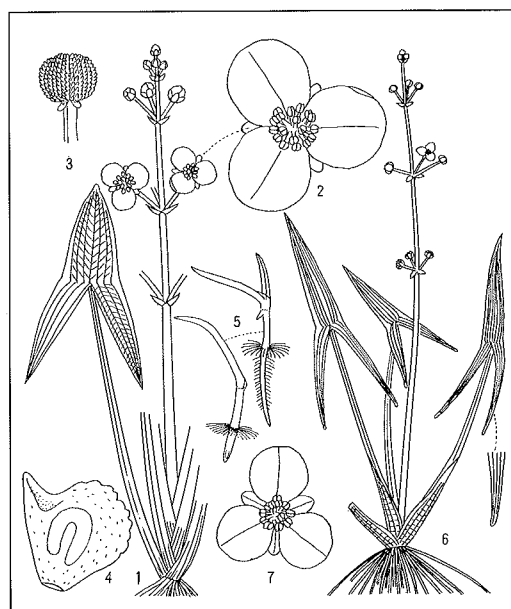
(*Sagittaria aginashi* Makino)

オモダカ、アギナシともに水田や溝などに生育し、水田での発生も多い。葉や茎、花などが非常によく似ていて地上部での判断は難しい。見分け方のポイントはオモダカは地下茎をだして先端に塊茎をつけるが、アギナシは地下茎をださずに株元に塊茎をつけるのでこれで区別できる。

－見分け方－

草種	オモダカ
部位	
葉	葉は長い葉柄があり、細長い矢じり形で3片になる。左右の下片は頂裂片より長く、先は細く鋭くとがる。(アギナシの下片の先は鈍くとがる)。頂裂片の先は鈍くとがる(アギナシは鋭くとがる)。
茎	茎は高さ20～80cm。上部の節毎に3個ずつ花をつける。
花	白色。がく片、花弁ともに3枚。
塊茎	秋に地下茎をだして、その先端に塊茎をつける。1株で50～150個の塊茎ができる。

草種	アギナシ
部位	
葉	葉は長い葉柄があり、細長い矢じり形で3片になる。裂片はオモダカよりやや幅が狭い。左右の下片は頂裂片より短い(オモダカは長い)。先は鈍くとがりやや丸い。頂裂片の先は鋭くとがる。
茎	茎は高さ30～80cm。上部の節毎に3個ずつ花をつける。
花	白色。がく片、花弁ともに3枚。
塊茎	秋に地下茎をださなくて、株もとに球状の塊茎を多数つける。これがオモダカとの大きな区別点である。(カラー頁参照)



▲1～5 オモダカ 6～7 アギナシ

●ヘラオモダカ・多年生とサジオモダカ・多年生（オモダカ科）●

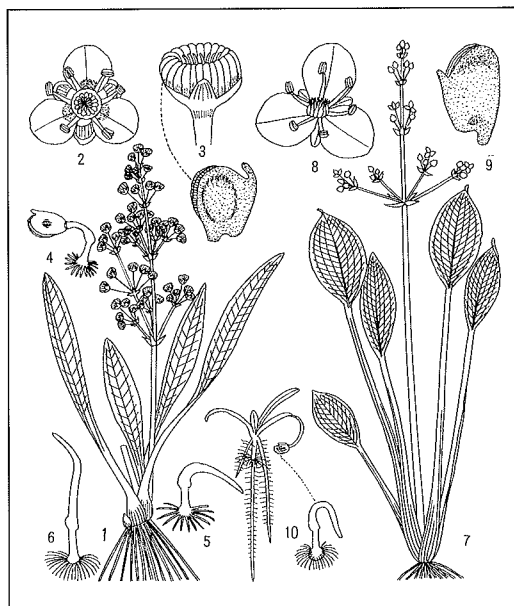
(*Alisma canaliculatum* A. Br. et Bouche') (*Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale* Samuels.)

ヘラオモダカ、サジオモダカともに水田や溝などに生育し、水田での発生も多い。どちらも葉柄の先に葉身をつけるが、名前のおとヘラオモダカはヘラ状の葉身をつける、サジオモダカはサジ状の葉身をつけるのでなれと容易に見分けられる。

－見分け方－

草種	ヘラオモダカ
部位	
葉	葉は根生し、披針形～広披針形(へら状)で幅1～3cm、先はとがる。葉身基部は次第に狭くなり葉柄に流れて葉柄となる。葉柄を含めた長さ20～40cm。
茎	茎は高さ30～100cm。上部に輪状に多くの枝をだし多数の花をつける。
花	花は白色。がく片、花弁ともに3枚。
果実	果実の背面に1本の溝が走る。(サジオモダカは2本)

草種	サジオモダカ
部位	
葉	葉は根生し、卵状楕円形(さじ状)で幅3～10cmとヘラオモダカより広い。葉身基部は横に切れた形かまたは心臓形で葉柄に流れないので葉身と葉柄がはっきりする。(ヘラオモダカは流れる)。葉柄は丸みをおびる。
茎	茎は高さ60～90cm。上部に輪状に多くの枝をだし多数の花をつける。
花	花は白色。がく片、花弁ともに3枚。
果実	果実の背面に2本の溝が走る。(ヘラオモダカは1本)



▲1～6 ヘラオモダカ 7～10 サジオモダカ

平成19年度緑地管理関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成19年度緑地管理関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成19年2月4日(月)～5日(火)に秋葉原UDXギャラリーにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者18名、委託関係者54名ほか、計97名の参集を得て、除草剤43薬剤

(277点)、生育調節剤1薬剤(2点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成19年度 緑地管理関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

注) アダプティは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草: ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判定	判定内容
1. AKD-7164水和 シアンゲン50% [アグロカネショウ]	適用性 継続	植調北海道 植調古川 植調研究所 植調埼玉 新中国G研 植調福岡 (6)	[一年生雑草(ツクサを除く)] ・発生前 ・300g<100, 200L> ・600g<100L> ・土壌処理 対) トリアリサイド 乳 300mL<100L>	実・ 継	実) [一年生雑草(ツクサを除く)] ・発生前 ・300～600g<100～200L> ・土壌処理 継) ・300g処理での効果について年次 変動の確認
2. AKD-7174粒 DBN 4% シアンゲン10% [アグロカネショウ]	適用性 新規	植調北海道 植調古川 植調研究所 (3)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・生育初期(草丈20cm以下) ・10, 15, 20kg ・土壌処理 対) カリロン粒 6.7 12kg	継	継) ・効果の確認
3. AKD-7175粒 DBN 1.2% シアンゲン3% [アグロカネショウ]	適用性 新規	植調北海道 植調古川 植調研究所 (3)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・生育初期(草丈20cm以下) ・20, 30, 40kg ・土壌処理 対) カリロン粒 30kg	継	継) ・効果の確認
4. AKD-7176粒 DBN 4% シアンゲン2% 既知化合物A0.5% [アグロカネショウ]	適用性 新規	植調研究所 植調福岡 (2)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・生育初期(草丈20cm以下) ・10, 15, 20kg ・土壌処理 対) カリロン粒 6.7 12kg	継	継) ・効果の確認
5. AKD-7177粒 DBN 2% シアンゲン1% 既知化合物A0.25% [アグロカネショウ]	適用性 新規	植調研究所 植調福岡 (2)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・生育初期(草丈20cm以下) ・20, 30, 40kg ・土壌処理 対) カリロン粒 30kg	継	継) ・効果の確認

A. 除草剤

注) アダ-ライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
6. AKD-7178粒 DBN 4%, シアジン2%, 既知化合物B1. 5% [アグロカネショウ]	適用性 新規	植調研究所 植調福岡 (2)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌処理 ・ 対) カロ粒 6. 7 12kg	継	継) ・ 効果の確認
7. AKD-7179粒 DBN 2%, シアジン1%, 既知化合物B0. 75% [アグロカネショウ]	適用性 新規	植調研究所 植調福岡 (2)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 20, 30, 40kg ・ 土壌処理 対) カロ粒 30kg	継	継) ・ 効果の確認
8. GG-162粒 シアジン2%, DCMU4%, MCPPカリウム4% [日本ケルシンアントカーデン]	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 15, 20, 30kg ・ 土壌処理 対) クサノランカ-MS粒 15kg	実	実) [一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 発生前〜生育初期 (草丈20cm以下) 15〜30kg/10a 土壌処理 注) セイタカアワダチソウ, イタドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない場面で使用する
9. GG-183粒 イソロン1%, シアジン4%, DBN2% [日本ケルシンアントカーデン]	適用性 継続	植調北海道 植調古川 東日本G研 植調研究所 新中国G研 西日本G研 (6)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 発生前 ・ 7. 5, 10, 15kg ・ 土壌処理 対) ワイドウェイ粒 7. 5kg	実・継	実) [一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 発生前 7. 5〜20kg/10a 土壌処理 注) セイタカアワダチソウ, イタドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない場面で使用する 継) ・ 発生前の7. 5kg処理での効果について年次変動の確認
	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌処理 対) ワイドウェイ粒 10kg		
10. GG-184粒 チアチロン0. 8%, シアジン2%, DBN2%, DCMU4% [日本ケルシンアントカーデン]	適用性 継続	植調古川 東日本G研 新中国G研 (3)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 発生前 ・ 7. 5, 10, 15kg ・ 土壌処理 対) ワイドウェイ粒 7. 5kg	実	実) [一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 発生前 7. 5〜15kg/10a 土壌処理 注) セイタカアワダチソウ, イタドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない場面で使用する 継) ・ 生育初期 (草丈20cm以下) 10〜20kg/10a 土壌処理 注) セイタカアワダチソウ, イタドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない場面で使用する
	適用性 継続	植調古川 東日本G研 新中国G研 (3)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌処理 対) ワイドウェイ粒 10kg		

A. 除草剤

注) アダ-ライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
11. GG-185粒 テブチロン1%, DCBN2% [日本ケリンアンドカー デン]	適用性 継続	植調北海道 東日本G研 新中国G研 (3)	[一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌処理 対) ケブチロンMS粒 15kg	実	実) [一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) 10~20kg/10a 土壌処理注) セイカワダチウ、イドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない場面で使用する
12. GG-190粒 カルブチート 0.8%, シアジン 1.5%, DBN 1.5% [日本ケリンアンドカー デン]	適用性 新規	植調古川 東日本G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌処理 対) 草退治粒 10kg	継	継) ・ 効果の確認
	適用性 新規	植調古川 東日本G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 20, 30, 40kg ・ 土壌処理 対) 草退治粒 20kg	継	継) ・ 効果の確認
13. HW-010粒 ターバシル3%, DBN2% [日本ケリンアンドカー デン]	適用性 継続	植調古川 東日本G研 新中国G研 (3)	[一年生雑草] ・ 発生前 ・ 5, 7.5, 10kg ・ 土壌処理 対) ワイドウェイ粒 7.5kg	実	実) [一年生雑草] ・ 発生前 5~10kg/10a 土壌処理
14. MBH-034粒 プロマシル1%, DCMU3% [丸和ハイオキカル]	適用性 継続	植調岩手 東日本G研 新中国G研 (3)	[スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 20, 30, 40kg ・ 土壌処理 対) 草退治粒 20kg	実	実) [一年生雑草、多年生広葉雑草] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) 10~20kg/10a 土壌処理 注) セイカワダチウ、イドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない場面で使用する。 [スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) 20~40kg/10a 土壌処理
15. MBH-061粒 ターバシル2%, DCMU2% [丸和ハイオキカル]	適用性 継続	植調北海道 新潟畜産研 西日本G研 (3)	[一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 15, 20, 30kg ・ 土壌処理 対) ワイドコン粒 15kg	実	実) [一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期 (草丈20cm以下) 15~30kg 土壌処理 注) セイカワダチウ、イドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない場面で使用する。

A. 除草剤

注) アダージンは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
16. MBH-063粒 ブ ロシワ3%、 MCPPカリウム2% [丸和パ イオミカル]	適用性 継続	新中国G研 西日本G研 (2)	[一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期(草丈20cm以下) ・ 15, 20, 30kg ・ 土壌処理 対) 草退治粒 15kg	実 ・ 継	実) [一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期(草丈20cm以下) 15~30kg/10a 土壌処理 継) ・ 大型多年生広葉雑草に対する効果の確認
	適用性 新規	植調北海道 植調十勝 植調岩手 植調古川 東日本G研 植調研究所 (6)	[一年生雑草] ・ 発生前 ・ 5, 7, 5, 10kg ・ 土壌処理 対) ハパ-X粒 5kg	実 ・ 継	実) [一年生雑草] ・ 発生前 ・ 5~10kg ・ 土壌処理 継) ・ 年次変動の確認
17. MBH-064粒 ターハ シル2%、 DCMU2%、 MCPPカリウム2% [丸和パ イオミカル]	適用性 継続	新潟畜産研 植調福岡 (2)	[一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期(草丈20cm以下) ・ 15, 20, 30kg ・ 土壌処理 対) 草退治粒 15kg	実 ・ 継	実) [一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期(草丈20cm以下) 15~30kg/10a 土壌処理 注) セイタカアワダチソウ、イナドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない 場面で使用する
18. SYJ-19470アブル プロジ アミン40% [シンジエンタジ ャパン]	適用性 継続	東日本G研 福岡豊前 (2)	[一年生雑草(サトウキビを除く)] ・ 発生前 ・ 250, 375, 500mL<100L> ・ 土壌処理 対) クサブ ロック水和 240g<100L>	実 ・ 継	実) [一年生雑草(サトウキビを除く)] ・ 発生前 250~500mL<100L>/10a 土壌処理 継) ・ 低薬量での効果について年次変動の確認
19. SB-576粒 カルブ チレート1.5%、 メコプ ロップ Pカリウム1.5% [エス・デー・エー・エス パイオテック]	適用性 新規	植調北海道 植調古川 植調埼玉 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 生育初期(草丈20cm以下) ・ 20, 30, 40kg ・ 土壌処理 対) クサレンジャー粒 15kg	継	継) ・ 効果の確認
20. SB-58370アブル カルブ チレート40%、 既知0.1% [エス・デー・エー・エス パイオテック]	適用性 新規	植調北海道<翌春> 東日本G研<翌春> 植調埼玉<翌春> 新中国G研<翌春> 西日本G研<翌春> (5)	[一年生雑草、多年生広葉雑草] ・ 生育初期(草丈20cm以下) ・ 1000, 1500, 2000mL<100L> ・ 茎葉兼土壌処理 対) バックアップ FL 1500mL<100L>	継	継) ・ 効果の確認

A. 除草剤

注) アダグライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
21. SB-5581粒 カルブチレート2% [エス・ディー・エス・ハイオテック]	適用性 継続	東日本G研<翌春> 植調研究所<翌春> 植調埼玉<翌春> 新中国G研<翌春> (4)	[ササ類] ・ 生育期 ・ 40, 50kg ・ 土壌処理 対) バックアップ 粒 25kg	実・継	実) [一年生雑草、多年生広葉雑草] ・ 生育初期 (草丈 20cm 以下) 20~40kg/10a 土壌処理 [多年生イネ科雑草] ・ 生育初期 (草丈 20cm 以下) 40~60kg/10a 土壌処理 注) ススキ、ササ、セイタカアワダチソウ、イタドリ等大型多年生雑草を対象としない場面で使用する。 [ササ類] ・ 生育期 (100cm 以下) 40~50kg/10a 土壌処理 継) ・ ササ類に対する処理翌年の効果について
	適用性 新規 (H18 翌春)	東日本G研 植調研究所 岐阜畜産研 岡山北部 (4)	[ササ類] ・ 生育期 ・ 30, 40, 50kg ・ 土壌処理 対) バックアップ 粒 25kg		
22. SB-5671粒 カルブチレート1.5%、 テトラピオン1.0% [エス・ディー・エス・ハイオテック]	適用性 継続	東日本G研<翌春> 植調研究所<翌春> 植調埼玉<翌春> 新中国G研<翌春> (4)	[ササ類] ・ 生育期 ・ 40, 50kg ・ 土壌処理 対) バックアップ 粒 25kg	実・継	実) [一年生雑草、多年生雑草] ・ 生育初期 (草丈 20cm 以下) 20~40kg/10a 土壌処理 [ササ類] ・ 生育期 (100cm 以下) 40~50kg/10a 土壌処理 継) ・ ササ類に対する処理翌年の効果の確認
	適用性 新規 (H18 翌春)	東日本G研 植調研究所 岐阜畜産研 岡山北部 (4)	[ササ類] ・ 生育期 ・ 30, 40, 50kg ・ 土壌処理 対) バックアップ 粒 25kg		
23. NBH-043微粒 テトラピオン 4%、 メスルフロメチル 0.01% [丸和ハイオキッド]	適用性 継続 (H18 翌春)	植調研究所 岐阜畜産研 植調福岡 (3)	[一年生雑草、多年生雑草] ・ 秋冬期 生育初期 (草丈20cm以下) ・ 15, 20, 25kg ・ 茎葉兼土壌処理 対) フルノック液 1500mL<100>	実・継	実) [一年生雑草、多年生雑草] ・ 秋冬期 生育初期 (草丈20cm以下) 15~25kg/10a 茎葉兼土壌処理 注) ・ 秋期刈払い後、10月下旬~12月上旬で、多年生雑草が生育を停止する時期に処理する 継) ・ ススキ、セイタカアワダチソウ、ススキに対する効果について
24. SW-056粒 テトラピオン 4.5%、 プロモスル 3% [三共アグロ]	適用性 新規 (H18 翌春)	植調北海道 植調古川 植調研究所 新中国G研 (4)	[一年生雑草、多年生雑草] ・ 生育期 (春~夏期 草丈30cm以下) ・ 10, 15, 20kg ・ 茎葉兼土壌処理 対) ハバ-X粒 15kg	実・継	実) [一年生雑草、多年生雑草] ・ 生育期 (草丈30cm以下) 10~20kg/10a 土壌処理 継) ・ 処理翌年の効果について年次変動の確認
	適用性 継続 (H18 翌春)	岐阜畜産研 新中国G研 (2)	[一年生雑草、多年生雑草] ・ 生育期 (秋期 草丈30cm以下) ・ 10, 15, 20kg ・ 茎葉兼土壌処理 対) ハバ-X粒 15kg		

A. 除草剤

注) アダプティは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
25. テトラオン粒 テトラオン 10% [三共ファーム]	適用性 継続 (H18 翌春)	泉パークタウン 東日本G研 植調埼玉 アノGC (4)	[雑類] ・ 生育期 (休止期 早春) ・ 8, 15kg ・ 土壌処理	実	実) [雑類; 根絶効果] ・ 生育終期～休止期 8～15kg/10a 土壌処理
	適用性 継続 (H18 翌春)	泉パークタウン 植調埼玉 アノGC (3)	[雑類] ・ 生育終期～休止期 (11月頃) ・ 8, 15kg ・ 土壌処理		
26. AK-01 (AL) 液 グリホサートイソプロピルアミン 塩1% [TAC普及会]	適用性 継続	植調北海道 泉パークタウンGC 植調研究所 植調埼玉 福岡豊前 植調福岡 (6)	[雑草全般] ・ 生育期 (草丈30cm以下) ・ 20, 40L ・ 茎葉処理 (希釈せずそのまま散布) ・ 展着剤不要 対) 草退治シャワー 20L	実	実) [一年生雑草, 多年生雑草 (スギナを除く)] ・ 生育期 (草丈30cm以下) ・ 20～40L/10a ・ 茎葉処理 (希釈せずそのまま散布)
27. BES-401フロアブル グリホサートイソプロピルアミン 塩 28. 8%, ジフルエニカン 3. 4% [ハリエル クロップ サイエンス]	適用性 継続	泉パークタウンGC 東日本G研 植調埼玉 香川県中 植調福岡 沖縄名護 (6)	[雑草全般, スギナ] ・ 生育期 (草丈 30cm 以下) ・ 1000, 1500, 2000mL<100L> ・ 茎葉兼土壌処理 対) ラウンドアップ 液 1000mL<100L>	実・ 継	実) [一年生雑草, 多年生雑草 (スギナを除く)] ・ 生育期 (草丈 30cm 以下) ・ 1000～2000mL<100L>/10a ・ 茎葉兼土壌処理 継) ・ スギナに対する効果の確認 ・ 処理翌年の効果の確認
28. DPX-T76顆粒水和 メスルフロキサリル60% [丸和ハナイカカル]	適用性 新規	植調研究所 植調埼玉 新中国G研 (3)	[雑かん木] ・ 生育期 (150cm以下) ・ 10g<100, 200L> 20g<100L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要	継	継) ・ 効果の確認
	適用性 新規	植調研究所 新中国G研 西日本G研 (3) (東日本G研: 自主)	[広葉雑草, クス] ・ 生育期 (草丈50cm以下) ・ 10g<100, 200L> 20g<100L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ギャットロンミン液 500mL<100L>	実・ 継	実) [広葉雑草] ・ 生育初期 5～10g<100～150L>/10a 茎葉処理 ・ 生育期 (草丈50cm以下) 10～20g<100～200L>/10a 茎葉処理 継) ・ クス以外の広葉雑草に対する効果について年次変動の確認 ・ クスに対する効果の確認

A. 除草剤

注) アンダーラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判定	判定内容
29. GL-40液 グリホサートイソプロピルアミン塩1.3%、 MCPAイソプロピルアミン塩0.25% [住化園芸]	適用性 新規	植調十勝 植調古川 東日本G研 植調研究所 植調埼玉 香川府中 植調福岡 (7)	[雑草全般, スギナ] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 20, 25, 40L (希釈せずそのまま散布) ・ 展着剤不要 対) ゼンザ 液AL 100L	実・継	実) [一年生雑草, 多年生雑草, スギナ] ・ 生育期(草丈30cm以下) 25~40L/10a (希釈せずそのまま散布) 茎葉処理 継) 年次変動の確認
	適用性 新規	東日本G研<翌春> 岐阜畜産研<翌春> 岡山北部<翌春> 新中国G研<翌春> (4)	[ササ類] ・ 生育期(草丈50cm以下) ・ 40, 60, 80L (希釈せずそのまま散布) ・ 展着剤不要 対) ランドアップハイロード 液 1000mL<50L>	継	継) ・ 効果の確認
30. KUH-913液 ビスリバクナトリウム塩3% [クミイ化学, 理研グループ]	適用性 新規	東日本G研 植調研究所 (H18塩尻, H19塩尻, H19千曲川) 植調埼玉 新中国G研 (6)	[ハリエング] ・ 生育期(150cm以下) (刈取後の再生期でも可) ・ 700mL<100, 200L> ・ 1000mL<100L> ・ 茎葉処理 対) ランドアップハイロード 液 1000mL<100L>	実・継	実) [ハリエング] ・ 生育期(150cm以下) 1000mL<100~200L>/10a 茎葉処理 継) ・ 年次変動の確認
31. MBH-065液 グリホサートイソプロピルアミン塩2%、 ブロマシロ0.4% [丸和ハイクシカル]	適用性 継続	植調岩手 東日本G研 植調研究所 島根農技 (4)	[雑草全般, スギナ, ドクダミ, ササ] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 40, 60, 80L ・ 茎葉兼土壌処理 (希釈せずそのまま散布) 対) 草退治シャワー 40L	実・継	実) [一年生雑草, 多年生雑草, スギナ, ドクダミ] ・ 生育期(草丈30cm以下) 40~80L/10a 茎葉兼土壌処理 (希釈せずそのまま散布) 継) ・ ドクダミに対する効果について年次変動の確認 ・ サに対する効果の確認
32. MBH-071微粒 ブロマシロ2%、 メコフロップ-Pカリウム1% [丸和ハイクシカル]	適用性 新規	植調北海道 植調古川 植調研究所 (3)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 生育初期(草丈20cm以下) ・ 15, 20, 30kg ・ 茎葉兼土壌処理 対) ダイロン微粒 15kg	継	継) ・ 効果の確認
33. MBH-072液 グリホサートイソプロピルアミン塩1.5%、 ブロマシロ0.75%、 メコフロップ-Pカリウム0.3% [丸和ハイクシカル]	適用性 新規	新潟畜産研 島根農技 植調福岡 (3)	[雑草全般, スギナ] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 30, 45, 60L ・ 茎葉兼土壌処理 (希釈せずそのまま散布) 対) 草退治シャワー 40L	継	継) ・ 効果の確認
34. MBH-073液 ブロマシロ0.5%、 メコフロップ-Pカリウム0.3% [丸和ハイクシカル]	適用性 継続	植調古川 東日本G研 植調研究所 岐阜畜産研 (4)	[一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 40, 60, 80L ・ 茎葉兼土壌処理 (希釈せずそのまま散布) 対) 草退治シャワー 40L	実・継	実) [一年生雑草, 多年生広葉雑草, スギナ] ・ 生育期(草丈30cm以下) 40~80L/10a ・ 茎葉兼土壌処理 (希釈せずそのまま散布) 継) ・ 年次変動の確認

A. 除草剤

注) アダージは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
35. MBH-074液 ク'リホサートイソプ'ロビ'ルアミン 塩1.1%, MCPAイソプ'ロビ'ルアミン塩 0.2% [丸和パ'イカミル]	適用性 継続	東日本G研 岐阜畜産研 新中国G研 西日本G研 (4)	[雑草全般; スギナ] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 25, 37.5, 50L ・ 茎葉兼土壌処理 (希釈せずそのまま散布) 対) 草退治シワワ 25L	実 ・ 継	実) [一年生雑草, 多年生雑草, スギナ] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 25~50L/10a ・ 茎葉処理 (希釈せずそのまま散布)
	適用性 新規 (H18 翌春)	新中国G研 (4)	[一年生雑草, 多年生雑草, スギナ] ・ 生育期(草丈50cm以下) ・ 25, 37.5, 50L ・ 茎葉処理 (希釈せずそのまま散布) 対) 草退治シワワ 25mL/m ²		継) ・ 多年生雑草に対する効果の 確認
36. MON-96A液 ク'リホサートアノモニウム塩41% [日産化学]	適用性 継続	植調研究所<翌春> 植調埼玉<翌春> 新中国G研<翌春> (3)	[雑かん木] ・ 伐採直後 ・ 原液、2倍液 ・ 切り株塗布処理 (切り口全体に塗布)	実 ・ 継	実) [雑かん木; 根絶効果] ・ 伐採直後 原液または2倍液 切り株塗布処理 (切り口全体に塗布)
	適用性 新規 (H18 翌春)	東日本G研 植調研究所 植調埼玉 新中国G研 (4)	[雑かん木] ・ 伐採直後 ・ 原液、2倍液 ・ 切り株塗布処理		継) ・ 根絶効果について年次変動の確 認 <参考> ・ 効果の確認された樹種 ク'リ、ハリエンジュ、マテバシ、ニワウルシ
37. MRS-195液 ク'リホサートイソプ'ロビ'ルアミン 塩41% [ニューファム]	適用性 継続	<泉パ'ークタウ> 東日本G研<翌春> 植調埼玉<翌春> 岡山北部<翌春> 新中国G研<翌春> (5)	[タネ類] ・ 生育期(秋期) ・ 5, 10, 15mL/個体(原液) ・ 注入処理 対) ラウンドアップハイド'ド'液 5mL/個体(原液)	継	継) (H19分は保留) ・ 効果の確認
	適用性 新規 (H18 翌春)	泉パ'ークタウ 植調埼玉 アノ/GC (3)	[タネ類] ・ 生育期(秋期) ・ 5, 10, 15mL/個体(原液) ・ 注入処理 対) ラウンドアップハイド'ド'液 5mL/個体(原液)		
38. MRS-199液 ク'リホサートイソプ'ロビ'ルアミン 塩1% [ニューファム]	適用性 継続	東日本G研<翌春> 植調埼玉<翌春> 香川府中<翌春> (3)	[多年生雑草 (スギナを除く)] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 25, 40L ・ 茎葉処理 (希釈せずそのまま散布) ・ 展着剤不要 対) ネコギ'AL 50L	実 ・ 継	実) [一年生雑草, 多年生雑草 (スギナを除く)] ・ 生育期(草丈30cm以下) 25~40L/10a 茎葉処理 (希釈せずそのまま散布)
	適用性 新規 (H18 翌春)	植調岩手 東日本G研 植調研究所 新中国G研 植調福岡 (5)	[多年生雑草] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 25, 40mL/m ² ・ 茎葉処理 (希釈せずそのまま散布) 対) ネコギ'AL 100mL/m ²		継) ・ 処理翌年の効果について年次変 動の確認
	適用性 新規	植調北海道 植調古川 岐阜畜産研 島根農技 植調福岡 (5)	[スギナ] ・ 生育期(草丈30cm以下) ・ 50, 80, 100L ・ 茎葉処理 (希釈せずそのまま散布) ・ 展着剤不要 対) ネコギ'AL 100L	継	継) ・ 効果の確認

A. 除草剤

(注) アナライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
39. NC-622液 グリホサートカルウム塩48% [日産化学]	適用性 継続	植調岩手<翌春> 植調研究所<翌春> 植調埼玉<翌春> (3)	[スチ] ・ 生育期 (草丈100cm以下) ・ 1000mL<25, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>	実	実) [スチ; 根絶効果] ・ 生育期 (草丈100cm以下) 1000~2000mL<25~100L>/10a (25~50L は専用ノズルを使用) 茎葉処理
	適用性 継続 (H18 翌春)	植調岩手 東日本G研 新中国G研 (3)	[スチ] ・ 生育期 (草丈100cm以下) ・ 1000mL<25, 50, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>		
	適用性 継続	植調研究所<翌春> 植調埼玉<翌春> 新中国G研<翌春> (3)	[クス] ・ 生育期 (開花直後~秋期) ・ 1000mL<25, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>	実・ 継	実) [クス; 根絶効果] ・ 生育期 (開花直後~秋期) 1000~2000mL<25~100L>/10a (25~50L は専用ノズルを使用) 茎葉処理
	適用性 継続 (H18 翌春)	新潟畜産研 東日本G研 植調研究所 (3)	[クス] ・ 生育期 (開花直後~秋期) ・ 1000mL<25, 50, 100> 2000mL<100> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>		継) ・ 処理翌年の効果について年次変動の確認
	適用性 継続	植調北海道<翌春> 植調研究所<翌春> (2)	[ヒハリツカ] ・ 生育期 (開花直後~秋期 草丈50cm程度) ・ 1000mL<25, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>	実・ 継	実) [ヒハリツカ] ・ 生育期 (開花直後~秋期, 草丈50cm以下) 1000~2000mL<25~100L>/10a (25~50L は専用ノズルを使用) 茎葉処理
	適用性 継続 (H18 翌春)	植調北海道 (1)	[ヒハリツカ] ・ 生育期 (開花直後~秋期 草丈50cm程度) ・ 1000mL<25, 50, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>		継) ・ 処理翌年の効果の確認

A. 除草剤

注) アダージェン は新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
NC-622液	適用性 継続	新潟畜産研<翌春> 岐阜畜産研<翌春> 岡山北部<翌春> (3)	[スギナ] ・ 生育期 (草丈20~30cm程度) ・ 1500mL<25, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 2000mL<50>	実	実) [スギナ; 根絶効果] ・ 生育期 (草丈 30cm 以下) 1500~2000mL<25~100L>/10a (25~50L は専用ノズルを使用) 茎葉処理
	適用性 継続 (H18 翌春)	新潟畜産研 岐阜畜産研 岡山北部 新中国G研 (4)	[スギナ] ・ 生育期 (草丈20~30cm程度) ・ 1500mL<25, 50, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 2000mL<50>		
	適用性 継続	岐阜畜産研<翌春> 岡山北部<翌春> 新中国G研<翌春> (3)	[ササ類] ・ 生育期 (夏期~秋期 草丈50cm以下) ・ 1000mL<25, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>	実	実) [ササ類; 根絶効果] ・ 生育期 (夏~秋期、草丈50cm以下) 1000~2000mL<25~100L>/10a (25~50L は専用ノズルを使用) 茎葉処理
	適用性 継続 (H18 翌春)	東日本G研 植調研究所 岐阜畜産研 岡山北部 (4)	[ササ類] ・ 生育期 (夏期~秋期 草丈50cm以下) ・ 1000mL<25, 50, 100> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>		
	適用性 継続	岐阜畜産研<翌春> 新中国G研<翌春> (2)	[雑かん木] ・ 生育期 (100cm以下) ・ 1000, 2000mL<100> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ マックスロード 液 1000mL<50>	実・ 継	実) [雑かん木; 根絶効果] ・ 生育期 (100cm以下) 1000~2000mL<25~50L>/10a (専用ノズルを使用) 茎葉処理 継) ・ 水量100Lでの効果の確認 ・ 処理翌年の効果について年次変動の確認
	適用性 継続 (H18 翌春)	東日本G研 植調研究所 岐阜畜産研 新中国G研 (4)	[雑かん木] ・ 生育期 (草丈100cm以下) ・ 1000mL<25, 50> 2000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップ 液 1000mL<50>		<参考> ・ 効果の確認された樹種: アカシガシ、ウルシ、エゴノキ、ガマズミ、クワ、ササトリイハ、ウシロダモ、タニウツギ、タラ、ナツハゼ、スズナ、ノイハ、ハリエンジュ、ボケ、ミズキ、モミジイロ、ヤブムラサキ、クマイチロ

A. 除草剤

注) アダプティは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL/水量 L/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
NC-622液	適用性 継続	植調研究所<翌春> 植調埼玉<翌春> 新中国G研<翌春> (3)	[雑かん木] ・ 伐採直後 ・ 原液、2倍液 ・ 切り株塗布処理 ・ 展着剤不要	実・継	実) [雑かん木; 根絶効果] ・ 伐採直後 原液または2倍液 切り株塗布処理 (切り口全体に塗布)
	適用性 新規 (H18 翌春)	東日本G研 植調研究所 植調埼玉 新中国G研 (4)	[雑かん木] ・ 伐採直後 ・ 原液、2倍液 ・ 切り株塗布処理	継	継) ・ 処理翌年の効果について年次変動の確認 <参考> ・ 効果の確認された樹種: コナラシ、ハリエンジュ、ヤマグリ、マテバシ
40. NH-007707アル ビラフルフェニル0.16%、 グリホサートイソプロピルアミン 塩30% [日本農業]	適用性 継続	<泉パーク>GC 東日本G研<翌春> 植調埼玉<翌春> (3)	[雑類] ・ 生育期 (秋期) ・ 10、15、20mL/個体 (原液) ・ 注入処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 5mL/個体 (原液)	継	継) ・ 効果の確認
	適用性 新規 (H18 翌春)	泉パーク 植調埼玉 70/GC (3)	[雑類] ・ 生育期 (秋期) ・ 10、15、20mL/個体 (原液) ・ 注入処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 5mL/個体 (原液)		
41. NNKH100液 ビラフルフェニル 0.0016%、 グリホサートイソプロピルアミン 塩0.3% [日本農業]	適用性 新規	植調北海道 植調古川 植調研究所 植調埼玉 新中国G研 福岡豊前 (6)	[雑草全般] ・ 生育期 (草丈30cm以下) ・ 100L (希釈せずそのまま散布) 対) 日農ハス液0.2 100L (希釈せずそのまま散布)	実・継	実) [一年生雑草, 多年生雑草 (スギナを除く)] ・ 生育期 (草丈30cm以下) 100L/10a (希釈せずそのまま散布) 茎葉処理 継) ・ 年次変動の確認
	適用性 新規	新潟畜産研 植調研究所 植調埼玉 岐阜畜産研 大阪食とみどり 岡山北部 (6)	[スギナ] ・ 生育期 (草丈30cm以下) ・ 100、200L (希釈せずそのまま散布) 対) 日農ハス液0.2 ・ 100L (希釈せずそのまま散布)	継	継) ・ 効果の確認
42. WOC-01液 グリホサートイソプロピルアミン 塩41% [三共アグリ]	適用性 継続	新潟畜産研<翌春> 植調研究所<翌春> 新中国G研<翌春> (3)	[雑かん木] ・ 伐採直後 ・ 原液、2倍液 ・ 切り株塗布処理 ・ 展着剤不要	実・継	実) [雑かん木; 根絶効果] ・ 伐採直後 ・ 原液または2倍液 ・ 切り株塗布処理 (切り口全体に塗布)
	適用性 新規 (H18 翌春)	東日本G研 植調研究所 植調埼玉 新中国G研 (4)	[雑かん木] ・ 雑灌木生育期 (4~10月) ・ 原液、2倍液 ・ 切り株塗布処理	継	継) ・ 処理翌年の効果について年次変動の確認 <参考> ・ 効果の確認された樹種: ニセアカシヤ、コナラシ、ヤマグリ、マテバシ

A. 除草剤

注) アグニは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
43. ZK-122液 ク リオサートカリウム塩43% [シンジエンジャパン]	適用性 継続	植調研究所<翌春> 植調埼玉<翌春> (2)	[マツヨイグサ類] ・ 生育期 (夏～秋期 草丈50cm以下) ・ 1000mL<50, 100L> 2000mL<50L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 参) ZK-122液 500mL<50L> 対) ラウンドアップハイロード液 1000mL<50L>	実・ 継	実) [マツヨイグサ類] ・ 生育期 (夏～秋期 草丈50cm以下) 1000～2000mL<50～100L>/10a 茎葉処理 継) ・ 処理翌年の効果の確認
	適用性 新規 (H18 翌春)	植調岩手 植調研究所 大阪食とみどり (3)	[マツヨイグサ類] ・ 生育期 (夏～秋期 草丈50cm以下) ・ 1000mL<50, 100> 1500, 2000mL<50> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 1000mL<50>		
	適用性 継続	植調研究所<翌春> 新中国G研<翌春> (2)	[クズ] ・ 生育期 (夏～秋期 草丈100cm程度) ・ 1000mL<50, 100> 2000mL<50> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 1000mL<50>	実・ 継	実) [クズ; 根絶効果] ・ 生育期 (夏～秋期 草丈100cm以下) 1000～2000mL<50～100L>/10a 茎葉処理 継) ・ 処理翌年の効果について年次変動の確認
	適用性 新規 (H18 翌春)	新潟畜産研 東日本G研 植調研究所 (3)	[クズ] ・ 生育期 (夏～秋期 草丈100cm程度) ・ 1000mL<50, 100> 1500, 2000mL<50> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 1000mL<50>		
	適用性 継続	<泉パークタウンGC> 東日本G研<翌春> (2)	[クサ類] ・ 生育期 (秋期) ・ 5, 10, 15mL/個体 (原液) ・ 注入処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 5mL/個体 (原液)	実	実) [クサ類; 根絶効果] ・ 生育期 (秋期) 5～15mL/個体 (原液) 注入処理
	適用性 継続 (H18 翌春)	泉パークタウン 植調埼玉 アオ/GC (3)	[クサ類] ・ 生育期 (秋期) ・ 5, 10, 15mL/個体 (原液) ・ 注入処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 5mL/個体 (原液)		

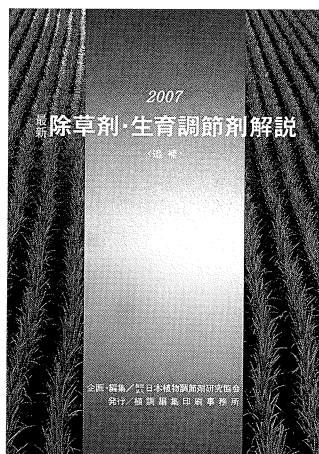
B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草：ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判定	判定内容
1. SYI-1927フロアブル トリフロキシルフロントリウム塩 10% [シンジエンタジヤン]	適用性 継続	植調岩手 植調研究所 (2)	[多年生イネ科雑草：草丈抑制による刈込軽減] ・ 生育期または刈り取り後再生期(草丈30cm以下) ・ 50, 75, 100mL<100L> ・ 展着剤を加用する 対) モニメント顆粒水和 9g<100L>	実	実) [多年生イネ科雑草：草丈抑制による刈込軽減] ・ 生育期または刈り取り後再生期(草丈30cm以下) 50～100mL<100L>/10a 茎葉処理 展着剤を加用する

2007年版

〈最新〉除草剤・生育調節剤解説

企画・編集／(財)日本植物調節剤研究協会 B5判 203頁 本体5,000円(税別)



ジャンボ剤、フロアブル剤、1キロ粒剤など最近の水田除草剤25剤、畑地除草剤3剤を集め、最新情報に基づいて、特長、使い方、性質などを解説し、登録における試験の成績も紹介。使用基準についてもできるだけ、最新情報を収録。

掲載した除草剤

(水田除草剤)

アピロスター	ザーベックスDX	ドニチS
アピロトップ	サラブレッドRX	フォーカスショット・ブレッサ
アピロファインD	シロノック	ボス
イッテツ	スピン	ミスターホームラン
イネエース	ダイナマンD	ラクダープロ
キチット	ダイナマン	(畑地、樹園地除草剤)
クサカリテイオー	ダッシュワン	シンバー
クサトリードX	テラガード	ナブ
クラッシュEX	トップガンGT	ロロックス

全国農村教育協会 〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6 Tel.03-3833-1821 Fax.03-3883-1665
(出版部直通 Tel.03-3839-9160 Fax.03-3839-9172) HTTP://www.zennokyo.co.jp

新刊

きのこ博士入門

根田仁／著 伊沢正名／写真

A5判 170頁

定価：1,700円＋税

きのこの図鑑というと、秋の季節もので、もっぱら「食用」か「毒」かといったことだけに話題が集中しているようですが、本当は春、夏、冬にも発生する生き物で、菌であるがゆえの不思議さと魅力に満ちています。本書はきのこの生態を中心に、自然界での役割について紹介しています。

全国農村教育協会 〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6 | ホームページ <http://www.zennokyo.co.jp>
TEL03-3839-9160 FAX03-3839-9172 | Eメール: hon@zennokyo.co.jp

帰化植物の話

ー東京郊外で多くなった帰化植物ー イケノミズハコベとオオカワヂシャ

全国農村教育協会 廣田伸七

東京都の西部を流れる多摩川の支流浅川の川岸に最近帰化植物のイケノミズハコベとオオカワヂシャが多く見られるようになった。10年ぐらい前はあまり気付かなかったが、この数年の間に急激に広まり、特にオオカワヂシャは現在では在来種のカワヂシャよりもオオカワヂシャの方が個体数が多くなっている。この両者は「植調誌」の今号の似た草の見分け方(2)(23～27頁)のミゾハコベとミズハコベの項でイケノミズハコベ。カワヂシャとエゾノカワヂシャの項でオオカワヂシャも紹介しているのでそちらを参照されたい。

イケノミズハコベ(アワゴケ科)(*Callitriche Stagnalis* Scop.) 越年 ▲イケノミズハコベ

生は、在来種のミズハコベに似ているが、ミズハコベより全体がやや大型。ヨーロッパ原産で1990年頃から山梨県富士吉田市のクレソン(オランダガラシ・アブラナ科)栽培田に帰化していた。茎はよく分枝して広がり長さ80cmにも達する。葉は倒卵形で対生、長さ5～15mm、茎先の葉はかたまって着く。全体は水中にあるが茎頂部の葉は水面に浮かぶ。川岸では水の流れがゆるやかな場所の川岸に



生育している(ミズハコベの記載は25頁。またイケノミズハコベのカラー写真は2頁に掲載してあるので参照されたい)。

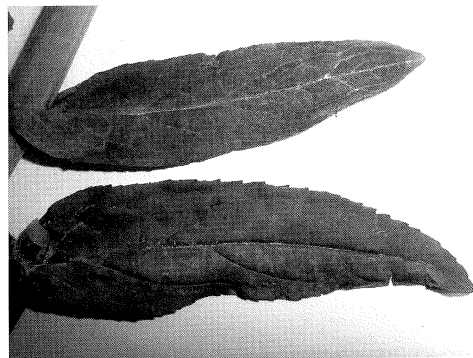
オオカワヂシャ(ゴマノハグサ科)(*Veronica anagallis-aquatica* L.) 多年生は、1920年代に帰化したと推定されていて、現在では関東から中部地方に多く見られるようである。在来種のカワヂシャ、エゾノカワヂシャの仲間で、

全体はカワヂシャに似るがカワヂシャよりもやや大型。カワヂシャとの区別点はオオカワヂシャの葉の鋸歯は少なくてほぼ全縁に見えるのに対し、カワヂシャの葉の鋸歯はやや大きく明瞭に見えるので葉の鋸歯で見分けがつく(下の写真参照)。また、オオカワヂシャの花

冠は淡紫色で紫色の条があるのに対して、カワヂシャの花冠は白色で淡紫色の条があるのでこの点でも見分けることもできる。なお、最近ではカワヂシャとオオカワヂシャの交配による雑種もあるといわれている(カワヂシャの記載は26頁、カラー写真は3頁に掲載してあるので参照されたい)。オオカワヂシャは川岸や川岸に近い草地に生育している。



▲オオカワヂシャ

▲上 オオカワヂシャ・下 カワヂシャ
鋸歯に注意

植 調 協 会 だ よ り

◎ 第 90 回理事会開催

平成20年3月19日(水)、植調会館3階会議室において第90回理事会が開催され、次の議案につき承認を得た。

1. 平成20年度事業計画及び収支予算

【平成20年度事業計画】

国民生活に不可欠な農作物の安定供給の確保を目的とし、省力化、低コスト化、安全性を持つ植物調節剤(除草剤、生育調節剤)の開発と適正な利用の普及を積極的に推進する。

- (1) 水田除草剤の水系への流出低減に関する調査研究(継続)
- (2) 抑草剤の開発と利用に関する研究(継続)
- (3) 植物調節剤等の環境動態と環境影響に関する研究(継続)
- (4) 畑地用除草剤の有効利用に関する研究(継続)
- (5) 水稻直播栽培における植物調節剤の有効利用に関する研究(継続)
- (6) 問題雑草の発生実態調査と防除技術の開発(継続)

【平成20年度収支予算】

(1) 一般会計	1,510,390 千円
(2) 収益事業特別会計	16,515 千円
合 計	1,526,905 千円

2. 役員報酬

3. 任期満了に伴う評議員の改選

退任評議員 岡田 吉弘

再任評議員 秋山 博志、坪 存、生杉 佳弘、大塚 範夫、荻原 武雄、古藤 修、後藤 周司、富久 保男、成 保俊一、橋野 洋二、早川 秀則、平川 孝行、廣田 伸七、間苧谷 徹、松川 勲、水野 晶巳、村井 敏信、森田 利夫、安田 誠

新任評議員 森田 征士

◎ 人事異動

平成20年3月31日付

退職 北海道試験地主任	佐藤 巖
退職 岩手試験地主任	上野 剛

平成20年4月1日付

任 事務局技師	山口 美香
任 研究所技師	穂坂 尚美
任 研究所技師	寺田 昌功
任 北海道試験地主任	吉良 賢二
任 古川試験地技師	佐々木 政彰
任 青梅試験地主任	伊田 黎之輔
任 山口試験地主任	藤岡 正美
任 福岡試験地	大隈 光善
任 鹿児島大隅試験地主任	露重 美義
命 研究所環境科学グループ長	権田 重雄
命 事務局技術部技術第一課係長	山木 義賢
命 古川試験地主査研究員	鶴谷 明宇
命 福岡試験地主査研究員	西田 勉

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小 川 奎
発行人 植 調 編 集 印 刷 事 務 所 元 村 廣 司

発行所 東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電 話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成20年4月発行定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第42巻第1号

(送料270円)

印刷所 (有)ネットワン

難防除雑草対策の新製品

イッテツ フロアブル
1kg粒剤 ジャンボ

期待の新製品

SU抵抗性雑草対応・
田植同時処理にも対応

ドニチS1kg粒剤 / ヨシキタ1kg粒剤

殺虫成分入り
(スクミリンゴガイ食害防止)

ショウリョク ジャンボ 2成分の
ジャンボ剤 **ゴヨウダ** ジャンボ

大好評の既存剤

ポーンと
手軽に

クラッシュEX ジャンボ

安定した効果の
初中期一発剤

ドニチ1kg粒剤

アピロイグル フロアブル

アワード フロアブル

キックバイ1 キロ粒剤

草闘力 ふろあぶる

クラッシュ1 kg粒剤

シェリフ1 kg粒剤

シーゼット フロアブル

バトル 粒剤

ロンゲット フロアブル

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP

住友化学

住友化学株式会社

お客様相談室 0670-058-669

農業支援サイト i-農力 <http://www.i-nouryoku.com>

DUPONT The miracles of science™

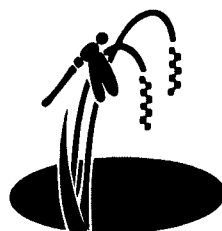
米国生まれ、 米の国育ち、DPX-84

1987年に上市したベンスルフロンメチル(DPX-84)は、

- 抵抗性雑草対策場面でも
- 田植え同時でも
- 直播栽培でも

多様な剤型で、これからも日本の
水田除草をお手伝いします。

®は米国デュポン社の登録商標です。



上記マークがついている除草剤
にはDPX-84が含まれています。

デュポン株式会社 農業製品事業部 〒100-6111 東京都千代田区永田町2-11-1

ご愛顧ありがとうございます。

おかげさまで、『年間販売実績日本一*』を達成できました。

〔*平成19農年度一発除草剤 日本植物調節剤研究協会資料より集計〕

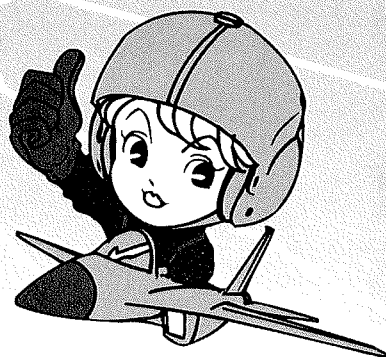
水稲用初・中期一発除草剤

トゥックガン®

＝抵抗する雑草を一発撃退！＝

250グラム（豆つぶ剤）・フロアブル・GT1キロ粒剤・ジャンボ剤

- 一年生雑草から多年生雑草まで幅広い除草効果を発揮します。
- SU剤抵抗性ホタルイ及び一年生広葉雑草にも高い効果があります。
- ノビエに対して3葉期まで防除できます。
- 水稲に対して安全性が高い薬剤です。



JAグループ
農 協 | 全農 | 経済連
登録商標 第4702318号

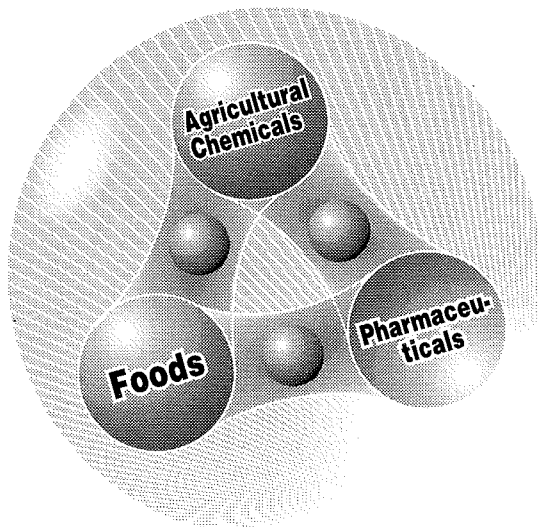
自然に学び 自然を守る
クミアイ化学工業株式会社
本社：東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL:03-3822-5036
ホームページ/ <http://www.kumiai-chem.co.jp>

平成三十一年四月発行

いのちの輝きを見つめる

Meiji

私たちは、夢と楽しさ、いのちの輝きを大切にし、
世界の人々の心豊かなくらしに、貢献します。



天然物で確実除草

ハービー®液剤



明治製菓株式会社
104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
<http://www.meiji.co.jp/nouyaku>